

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

**平成 27 年度～平成 31 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究成果報告書概要**

- 1 学校法人名 学校法人二松学舎 2 大学名 二松学舎大学
- 3 研究組織名 東アジア学術総合研究所
- 4 プロジェクト所在地 東京都千代田区九段南 2 丁目 4-14
- 5 研究プロジェクト名 近代日本の「知」の形成と漢学
- 6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
町 泉寿郎	文学部	教授

- 8 プロジェクト参加研究者数
- 17
- 名

- 9 該当審査区分
- 理工・情報
- 生物・医歯
- 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
【学内】			
牧角悦子	二松学舎大学・教授	近代日中学術の比較研究	学術研究班主任(学術史)
田中正樹	二松学舎大学・教授	三島中洲の経学	学術研究班(経学)
市来津由彦	二松学舎大学・特別招聘教授	訓読論	学術研究班(経学)
小方伴子	二松学舎大学・教授	秦鼎の校勘学と鎖国体制下の海外知見	学術研究班(文献学)
伊藤晋太郎	二松学舎大学・教授	日本近代における白話小説の受容	学術研究班(文学)
町泉寿郎	二松学舎大学・教授	漢学者の事績・学績に関する研究	学術研究班(漢学者)
ヴィグル・マティアス	二松学舎大学・専任講師	欧州における東洋学	学術研究班(学術史)
江藤茂博	二松学舎大学・教授	国語教育と漢学の研究—文検等	教学研究班主任
牧角悦子	二松学舎大学・教授	山田方谷・三島中洲を例とした教学の研究	教学研究班

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

町泉寿郎	二松学舎 大学・教授	教育制度と漢学	教学研究班
田中正樹	二松学舎 大学・教授	天皇・皇族に進講した漢学者 の研究	教学研究班
加藤国安	二松学舎 大学・特命 教授	明治期漢文教科書の研究	教学研究班
山口直孝	二松学舎 大学・教授	文学者の教養形成における 漢学の受容—夏目漱石を中 心として	近代文学研究班主任
牧角悦子	二松学舎 大学・教授	近代の文学概念に関する日 中比較研究	近代文学研究班
江藤茂博	二松学舎 大学・教授	高等教育における文学概念 の変容—教科書を中心に	近代文学研究班
町泉寿郎	二松学舎 大学・教授	漢蘭折衷医学にみる漢学・ 洋学の研究	近代文学研究班
町泉寿郎	二松学舎 大学・教授	東アジア筆談研究	東アジア研究班主任
王宝平	二松学舎 大学・教授	近代日中関係と漢学	東アジア研究班
【学外】			
合山林太郎	慶應義塾 大学・准教 授	19世紀日本漢学者文集の研 究	学術研究班(漢学者)
キリ・パラモア	ライデン大 学・講師	キリスト教・儒教と教学に関 する研究	教学研究班
徐興慶	中国文 化大学・教授	近代日台関係と漢学	東アジア研究班
朴暎美	檀国大 学 校漢文 教育研究 所・常任 研究員	近代日韓関係と漢学	東アジア研究班
劉岳兵	南開大 学・教授	近代日中関係と漢学	東アジア研究班
上地宏一	大東文 化大学・准 教授	各種データベースの構築	データベース公開
(共同研究機関等)			

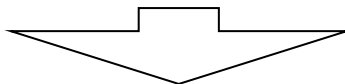
法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
明治期漢文教科書の研究	名古屋大学・教授	加藤国安	教学研究班

(変更の時期:平成 27 年 4 月 1 日)



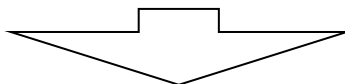
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
名古屋大学・教授	二松学舎大学東アジア学術総合研究所・特命教授	加藤国安	教学研究班

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
19 世紀日本漢学者文集の研究	二松学舎大学東アジア学術総合研究所・特命教授	大島晃	学術研究班(漢学者)

(変更の時期:平成 27 年 12 月 24 日)



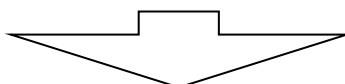
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
大阪大学大学院・准教授	慶應義塾大学・准教授	合山林太郎	学術研究班(漢学者)

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
近代日台関係と漢学	台湾大学・教授	徐興慶	東アジア研究班

(変更の時期:平成 29 年 10 月 12 日)



新

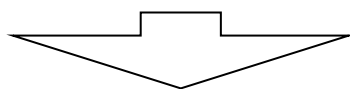
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
台湾大学・教授	中国文化大学・教授	徐興慶	東アジア研究班

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
近代日韓関係と漢学	成均館大学校・研究教授	朴暎美	東アジア研究班

(変更の時期:平成 29 年 10 月 12 日)

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004



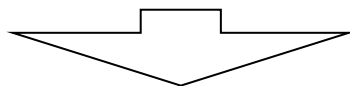
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
成均館大学校・研究教授	檀国大学校漢文教育研究所・常任研究員	朴暎美	東アジア研究班

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
江戸～明治初期の春秋学(平賀中南・安井息軒等)	二松学舎大学・特別招聘教授	野間文史	学術研究班

(変更の時期:平成 30 年 4 月 26 日)



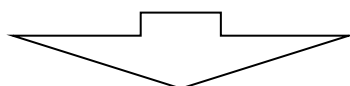
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
二松学舎大学・特別招聘教授	二松学舎大学・特別招聘教授	市來津由彦	学術研究班

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
平賀中南と上方学芸の研究	二松学舎大学・特別招聘教授	稲田篤信	学術研究班

(変更の時期:平成 30 年 4 月 26 日)



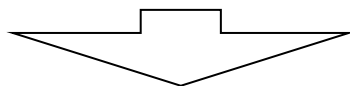
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
二松学舎大学・教授	二松学舎大学・教授	伊藤晋太郎	学術研究班

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
和刻本漢籍医書・仏典の目録作成	二松学舎大学・教授	高山節也	学術研究班

(変更の時期:平成 30 年 4 月 26 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
二松学舎大学・専任講師	二松学舎大学・専任講師	ヴィグル・マティアス	学術研究班

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

本プロジェクトは、平成16年度に21世紀COEプログラムに採択されて以来、本学が推進してきた「日本学としての漢文研究」の取り組みを継承するものである。長年にわたって日本の学術の中核にあった「漢学」(漢文による学び)は日本学の重要な支柱であるが、既存の「日本学」の研究教育組織は、伝統的な「国文学(日本文学)」の枠組みか、国際化社会にともなう国際日本学が多く、本プロジェクトが掲げる漢文による日本学研究の拠点は存在せず、研究分野も確立していない。このことに鑑み、日本学と中国学の共同研究体制により、国内外の関心が高い19世紀～20世紀前半に特化し、東アジア諸国など国外研究者と連携して研究を進めた。

具体的には、日本の近代化が進行した19世紀～20世紀前半、「漢学」が学術と教学に解体・再編される過程において、「漢文」による研究と教育を通して、近代日本がどのような「知」を形成し、それによってどのような人間や社会秩序を形成したかを検証した。特に、東アジア諸国や欧米の日本学研究者などの国外研究者と連携しつつ、「漢学」から日本近代化の特色や問題点を探り、新たな日本学の発展に寄与することに、本研究プロジェクトの研究目的と意義がある。

本プロジェクトの概要としては、学術・教学・近代文学・東アジアの4研究班体制で研究を推進した。研究班相互の認識の共有化や外部の研究成果の取込みのために、適時に研究会・講演会を実施した。

国内外の既存学会に積極的に参加して本プロジェクトの意義を広く発信するだけでなく、日本漢学に関連する国内外の研究者に呼びかけて、国際ワークショップ・国際シンポジウムを国内外で開催し、国際的な研究ネットワークによる日本漢学研究を推進した。

また、国際的な漢学研究と日本漢学研究との関係緊密化をはかるために、欧州東洋学者の旧蔵資料調査などを通じた共同研究を実施し、国内外の関連する研究機関のプロジェクトとの協力関係構築を行った。

漢学者関連資料の収集・整理・調査を進め、画像データベース等を構築し、併せて図書として刊行し研究成果を公開した。日本漢学に関する各種の情報発信を行うとともに、研究基盤を整備することによって、日本漢学研究の拠点形成をはかった。

若手研究者を研究員等として任用して、研究活動への参加を促すことにより、当該分野の専門知識、発信力、人的ネットワーク、研究組織内の調整など、研究者として必要なさまざまなスキルの養成を行った。また、海外の日本学研究者向けの日本漢学セミナーを毎年度開催し、海外の日本学研究者に対する日本漢学の知識の浸透・向上を実現した。

(2) 研究組織

「漢学」が学術と教学に解体・再編された過程を経時的・多角的に考察することにより、「漢学」から日本近代化の特色や問題点を探るべく、互いに関連する「近代学術と漢学」、「近代教学と漢学」、「近代文学と漢学」、「東アジアの近代化と漢学」の視点から研究を進めた。そのための研究組織として、学術研究班(8名)・教学研究班(6名)・近代文学研究班(4名)・東アジア研究班(4名)の4つの研究班を組織し、それぞれのテーマを研究領域とする研究者が研究班に所属して研究を推進した。各班に主任を置き、研究の進捗状況の把握に努めた。担当者会議を設置し、事業推進に関する事項を審議、承認するとともに、研究に関する情報、成果を共有した。研究代表者が議長となって担当者会議を招集し、プロジェクト全体を統括した。

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

学術研究班では、「経学」「文献学・校勘学」「漢学者」「学術史」等の観点から、19世紀～20世紀前半の儒者・漢学者・中国学者(例えば、平賀中南・安井息軒・芳野金陵・大原観山・三島中洲・川田壘江・井上哲次郎・服部宇之吉・鈴木虎雄・加藤虎之亮ら)とその著述に関する基礎研究を進め、中国関連の学術研究の形成過程を具体化した。

教学研究班では、「教育制度」「国語教育」「漢文教科書」「皇室と漢学」「宗教と教育」等の観点から、江戸後期の儒教教学に遡り、「国語」教科の一翼を担った「漢文」教育の実証研究を進めた。漢文教科書については、科研費共同研究による研究班も加わって、中国・韓国・台湾・越南各地域の近代教育における漢文教科書について調査を進めた。また文部省検定試験制度や民間諸団体(私塾・私学や斯文会など関連団体の動向)の活動についても研究を進めた。

近代文学研究班では、夏目漱石・幸田露伴・森鷗外・依田学海・正岡子規・永井荷風・芥川龍之介などの具体的な人物や作品を通して、西洋の外来知識と東洋の伝統文化の接続に関する諸相を具体化した。また『神聖喜劇』で知られる大西巨人の旧蔵資料の整理を通じて、現代文学における古典・漢詩文の意義と可能性を探った。

東アジア研究班では、「日台関係」「日韓関係」「日中関係」など近代東アジア諸国間の文物・人物の交渉に着目し、漢字文化圏特有の「筆談」に関する研究会を継続実施した。また、漢方医学・易学・作詩文など、近代学術の形成によって脱落していった学術分野に着目して、それを東アジア諸国の動向と関連させて考察した。

毎年度、研究員1名、研究助手4～5名、研究支援者2名を採用して各班の研究推進に参画させ、国内外での各種調査、シンポジウム、公開講座等の運営補助、『講座 近代日本と漢学』(全8巻)の分担執筆などに当たさせた。

事務職員3名(本学2名、派遣職員1名)を配置し、事務局として事務処理を支援した。

大学外の研究機関等の組織との連携では、洪沢栄一記念財団・浙江工商大学・(台湾)中国文化大学・リール市図書館等と連携し、共同研究を推進した。

21世紀COEプログラムの中間評価時における、「漢文研究の必要性を強く社会に訴えるべきである」との提言を踏まえて、研究成果の社会還元に留意し、包括協定を結んだ岡山県倉敷市において講演会を継続実施し、また全国の漢学者記念館の代表者を招集した漢学者記念館会議を開催した。

(3) 研究施設・設備等

東アジア学術総合研究所の全スペース(119 m²)及び既存設備について、本プロジェクトでの使用が認められたことにより、参加する学内外の研究者約20名が研究所内で研究活動を行うことができるようになった。また、卷子・書簡類を整理・調査するための作業スペースや、研究員・研究支援者・研究助手が論文執筆、データベース構築に関する書誌データ作成等の研究活動に従事するための専用スペースやPC(利用時間数12,341時間)を研究所内に新たに設置した。

さらに、マイクロフィルムを電子化するためのマイクロフィルムスキャナ(利用時間数8,438時間)や、古典籍資料を電子化するためのオーバーヘッドスキャナ(利用時間数351時間)を同研究所内に設置して、研究資料をデジタル化することで利便性を高め、研究の促進を図った。

漸次増加した文献資料の整理と保管のため、二松学舎大学柏キャンパス内に専用の資料保管庫(145 m²)を確保した。

本プロジェクトの研究成果や近代漢学に関する情報を対外的に発信するための場として、平成28年3月12日、岡山県倉敷市美観地区の倉敷物語館内に「二松学舎大学 備中漢学資料室」(19 m²)を開設した。

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

(4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

【平成 27(2015)年度】

学術研究班では、山田方谷研究会・三島中洲研究会を継続実施した。*1

教学研究班では、江戸後期からの全国の漢学塾の所在をリスト化し、その現状を調査した。また、受験参考書の漢文教育関係記事を通して戦時下・戦後の状況の把握に勉めた。さらに、『明治漢文教科書集成』を刊行した。*2

近代文学研究班では、「文学者の教養形成における漢学の受容」を課題として、夏目漱石・近松秋江・大西巨人・依田学海に関する調査を行った。*3

東アジア研究班では、本願寺僧侶の海外布教に関する資料の調査整理を行った。また、渋沢栄一など実業家と東アジア地域との関係に関する調査を行った。*4

シンポジウムとしては、浙江工商大学において国際シンポジウム「漢字文化とコミュニケーション 一筆談・現代アート・映像」、倉敷市において国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」、台湾師範大学において国際シンポジウム「東アジアの教育制度のなりたちと漢学」を開催した。*5

若手研究者養成のための取り組みとして、大学院における授業を日本漢学研究、及び漢文文献の調査整理に関心を持つ者にも開放して、漢籍書誌学・古文書解読・近世随筆・考証学などを取り上げた公開講座を実施した。また、高等学校教員、大学院生、一般社会人を対象とした「幕末明治の漢詩」「幕末明治の漢文」の公開講座を企画した。*6

海外資料調査としては、フランス・リール市図書館におけるレオン・ド・ロニー旧蔵漢籍の調査に着手した。*7

資料整理としては、清水信子・町泉寿郎が芳野金陵旧蔵資料の整理調査を継続的に実施し、整理を終えた資料を紹介する資料展示を開催した。*8 併せて、画像データベース構築のための資料の整理・撮影を行った。*9

【平成 28(2016)年度】

学術研究班では、徂徠学の影響を受けた儒者平賀中南の事蹟と学績について研究し、研究成果を『近代日本漢学資料叢書』第 1 巻、『近代日本漢籍影印叢書』第 1 巻として刊行した。*10 また、上海師範大学における「文献学」に関するシンポジウムに参加して研究発表を行った。*11 さらに、山田方谷研究会を継続実施して、山田方谷の著作を読解した。*12

教学研究班では、リスト化した漢学塾の現地調査を行い、藩校・漢学塾を前身に持つ中等教育機関・高等教育機関へのアンケート調査を実施した。また、大学における「文学部」の来歴と現在を問い直すための基礎資料調査を行った。*13

近代文学研究班では、「文学者の教養形成における漢学の受容」を課題として、東北大学附属図書館漱石文庫の資料調査を行うとともに、シンポジウム「漢文脈の漱石」を開催した。*14 また、依田学海・大西巨人らに関する資料調査を行った。*15

東アジア研究班では、近代日本知識人と儒教に関する研究や、日本統治時代の朝鮮半島における漢学に関する研究を進めた。*16 また、芳野金陵と清国公使館員の筆談資料の整理、および井上哲次郎・落合直文・橘周太・広瀬武夫・鶴田皓等に関する資料調査を行った。*17

シンポジウムとしては、パリ第 7 大学において国際シンポジウム「東アジアの近代化と漢学」を開催し、公益財団法人渋沢栄一記念財団とのシンポジウム「二松学舎創立 140 周年記念事業 「論語」と「算盤」が会う東アジアの近代 渋沢栄一と三島中洲」を共催した。*18

若手研究者養成のための取り組みとして、大学院における授業を開放して公開講座を実施した。高等学校教員、大学院生、一般社会人を対象とした「幕末明治の漢詩」「幕末明治の漢文」の公開講座を実施した。また、浙江工商大学との共催で、中国の大学の日本語教員を対象とした「日本漢学上級セミナー」を開催した。*6

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

海外資料調査としては、フランス・リール市図書館におけるレオン・ド・ロニー旧蔵漢籍の調査を継続実施した。*19

資料整理としては、芳野金陵・加藤復斎の資料整理を継続するとともに、新たに加藤虎之亮資料を受け入れてその整理調査に着手し、整理を終えた資料を紹介する資料展示を開催した。*8 併行して、画像データベース構築のための資料の整理・撮影を行った。*9

【平成 29(2017)年度】

学術研究班では、川田甕江資料、柿村重松資料、亀陽文庫等の資料調査を行った。*20

教学研究班では、学校史関連調査を継続実施し、新潟地方の漢学塾・漢学者に関する資料調査を行い、*21 大連大学主催シンポジウム「日本近代の「漢学」研究・教育をめぐって」を共催した。*22

近代文学研究班では、夏目漱石関係・大西巨人関係の資料調査を継続実施し、研究成果をまとめて『漢文脈の漱石』、『大西巨人 文学と革命』を刊行した。*23

東アジア研究班では、浙江大学との国際シンポジウム「東アジア筆談研究」、魯東大学との国際シンポジウム「儒教の現代性と東アジア文化圏の再構築」、公益社団法人易学連合会とのシンポジウム「易学の展開と近代」を共催した。*24

シンポジウムとしては、国際シンポジウム「文学部の現在：東アジアの高等教育—文学・外国語学・古典学/儒学」を開催した。また、早稲田大学中国古籍文化研究所と共催して、日本全国の儒者・漢学者を顕彰する各種組織に呼び掛けて、第 1 回「漢学者記念館会議」を開催した。*25

若手研究者養成のための取り組みとして、大学院における授業を開放して公開講座を実施した。高等学校教員、大学院生、一般社会人を対象とした「幕末明治の漢詩」「幕末明治の漢文」の公開講座を実施した。また、浙江工商大学との共催で、中国の大学の日本語教員を対象とした「日本漢学上級セミナー」を開催した。*6

海外資料調査としては、フランス・リール市図書館所蔵レオン・ド・ロニー旧蔵漢籍の調査の中間報告として、ライデン大学においてワークショップを開催した。*26

資料整理としては、芳野金陵・加藤虎之亮・加藤復斎の資料整理を継続するとともに、新収資料(山田準関係資料、片山重範遺稿、野崎萬三郎関係文書)の整理調査に着手し、整理を終えた資料を紹介する資料展示を開催した。*8 併行して、画像データベース構築のための資料の整理・撮影を行った。*9

【平成 30(2018)年度】

学術研究班では、佐伯市、日田市、延岡市、高鍋町など九州の藩校資料を調査した。*27

教学研究班では、漢文教科書に関する調査を継続実施した。また科研費共同研究による漢文教科書の研究会を開催した。*28

近代文学研究班では、夏目漱石関係・大西巨人関係の資料調査を継続実施するとともに、新潟市において地方新聞掲載の漢詩に関する調査を行った。*29

東アジア研究班では、明治期知識人と清国人による筆談録を読解する大河内文書研究会を発足した。*30 また沼津市大中寺などで三島中洲関係資料の調査を行った。

シンポジウムとしては、漢方医学古典の教育研究をテーマとした国際シンポジウム「内経学の系譜と漢学教育」、台湾中央研究院共催の国際ワークショップ「東アジアにおける漢文文化の伝播と流通」、香港城市大学共催の国際ワークショップ「日本漢文学の射程」、リール第三大学共催の国際シンポジウム「レオン・ド・ロニーの時代と日欧間の知の交流」、浙江大学共催の国際シンポジウム「近世東アジア地域における医師の国際移動や学術交流 —医学関係の筆談記録を中心に—」を開催した。*31 また、日本全国の儒者・漢学者を顕彰する各種組織に呼び掛けて、第 2 回「漢学者記念館会議」を開催した。*32

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

若手研究者養成のための取り組みとして、大学院における授業を開放して公開講座を実施した。高等学校教員、大学院生、一般社会人を対象とした公開講座「近代の漢詩・漢文」を実施した。また、浙江工商大学との共催で、中国の大学の日本語教員を対象とした「日本漢学上級セミナー」を開催した。*6

海外資料調査としては、フランス・リール市図書館所蔵レオン・ド・ロニー旧蔵資料に関連して、ロシア科学アカデミー附属図書館で 19 世紀欧州東洋学者の資料調査を行った。*33

資料整理としては、芳野金陵・加藤虎之亮・加藤復斎・野崎萬三郎らの資料整理を継続するとともに、新収資料(大沼枕山家資料、佐久間峻斎旧蔵医書)の整理調査に着手した。整理を終えた資料を紹介する資料展示を開催した。*8 併行して、画像データベース構築のための資料の整理・撮影を行った。*9

【平成 31(2019)年度】

学術研究班・教学研究班・近代文学研究班・東アジア研究班がそれぞれこれまでの研究成果の取りまとめを行った。5 年間の研究活動の広がり示しつつ、現在の「近代日本漢学」研究の水準を示すものとして、『講座 近代日本と漢学』全 8 巻を刊行した。班ごとに進めた研究においては、それぞれの論点について研究会等を通して掘り下げながら、その成果を大学等の教育に還元することに努めた。学術研究班では、19~20 世紀前半における大学等の制度・沿革を踏まえ、中国哲学・東洋史・中国文学・日本文学・日本思想等の分野を越えた近代日本文学の形成過程とその特徴を明らかにし、『講座 近代日本と漢学』第 1 巻・第 4 巻にその成果を記述した。また言語研究の視点から、漢学が日本語に果たした役割を『講座 近代日本と漢学』第 7 巻に記述した。教学研究班では、19~20 世紀における中等教育制度史を縦軸に、漢文教科書・受験参考書・検定試験・漢学塾等の私学等のテーマを国内にとどまらず中国・台湾・韓国・越南にも配慮しつつ調査研究し、『講座 近代日本と漢学』第 2 巻・第 5 巻にその成果を記述した。近代文学研究班では、各近代文学作家と漢学との関係に着目することによって外来知識と伝統文化の接続のあり方を具体化し、『漢文脈の漱石』『講座 近代日本と漢学』第 7 巻にその成果を記述した。「東アジア」研究班では、筆談・辺境・医学・欧州東洋学等のテーマを調査研究し、『講座 近代日本と漢学』第 3 巻・第 8 巻にその成果を記述した。*34

シンポジウムとしては、国際シンポジウム「レオン・ド・ロニーと 19 世紀欧州東洋学」、シンポジウム「枕山と荷風—江戸の漢文学は近代に何をもちたのか—」、シンポジウム「地域振興と漢学 —山田方谷・三島中洲・渋沢栄—」を開催し、国際シンポジウム「21 世紀における『孟子』像の新展開」を共催した。*35 また、日本全国の儒者・漢学者を顕彰する各種組織に呼び掛けて、第 3 回「漢学者記念館会議」を開催した。*36

若手研究者養成のための取り組みとして、大学院における授業を開放して公開講座を実施した。高等学校教員、大学院生、一般社会人を対象とした公開講座「近代の漢詩・漢文」を実施した。また、浙江工商大学と共催して、中国の大学の日本語教員を対象とした「日本漢学上級セミナー」を開催した。*6

資料整理としては、芳野金陵・加藤虎之亮・加藤復斎・野崎萬三郎・大沼枕山・佐久間峻斎らの資料整理を継続するとともに、新収資料(小野家文書)の整理作業に着手し、整理を終えた資料を紹介する資料展示を開催した。*8 併行して、画像データベース構築のための資料の整理・撮影を行い、「日本漢学画像データベース」として公開した。*9

<優れた成果が上がった点>

プロジェクト全体として強調したい点は、本プロジェクトが進めてきた「(近代)日本漢学研究」が同じく「日本漢文」を主たる対象としつつも、「和漢比較文学」「日本思想史」等の従来の研究とは目的・方法・内容が異なっていることである。「日本漢学」という牢固たる研究分野を

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

新しい視点から捉え直すことによって、「日本漢学」の学術的意義を喚起するべく勉めた。国内外の研究機関とのシンポジウム・ワークショップ等の国際的研究活動を通して、「漢文」に着目することによって「東アジアにおける日本」を文学・思想・宗教・政治・外交等を越境し、かつ国際的な枠組みで検討する必要性を訴え、またその有効性を示した。

1、特色ある研究成果としては次の点が挙げられる。

・制度史を軸とした学術史・教育史に関する研究：近代日本のアカデミズム形成過程における漢学をめぐる諸問題を、学校制度史や教育史を軸にしなが、個別の組織や個人を実例に関する調査研究を積み重ねた。これによって「近代漢学」に関する包括的な知識と個別的な展開が分かるようになった。

・古典学・文献学の形成に関する研究：18世紀末の儒者平賀中南は、従来ほとんど研究がないもの、徂徠学以降の江戸後期儒学の展開を考える上で重要な存在であることを示した。幕末明治期の漢学における古典学の形成を島田重礼や東京大学古典講習科、京都支那学によって具体化した。また加藤虎之亮によって近代日本漢学の校勘学の優れた成果を具体的に明らかにした。

・近代漢文教育史に関する研究：近代漢文教育通史のための基礎研究が整備された。明治期漢文教科書の整理公刊によって日本国内の漢文教育史のアウトラインを提示し、日本国内だけでなく中国・朝鮮半島・台湾・越南を視野に入れた漢文教育の研究を蓄積した。文部省検定試験制度や受験参考書による研究が進捗した。

・近代文学における漢学に関する研究：夏目漱石と漢学に関するまとまった論文集が刊行され、また大沼枕山と永井荷風、正岡子規の祖父に当たる大原観山、漢詩による政治批評で知られた国分青厓、大西巨人などについては、従来未紹介の新しい資料を用いた研究や資料紹介が進捗した。

・筆談資料など東アジア文化交渉に関する研究：資料集の刊行や新資料の紹介など基礎資料の整備が進捗し、また医学知識など筆談による個別具体的な伝播・流通内容に関する研究が進捗した。

・欧州東洋学に関する研究：レオン・ド・ロニーの旧蔵資料調査を通して、その漢籍蔵書がロニーの師にあたるアベル・レミュザやスタニスラス・ジュリアンの蒐集にかかるものであり、かつそれらレミュザやジュリアンの書入れが残る蔵書は、宣教師による研究の時代からの長い欧州東洋学の蓄積、また同時代の欧州各国の東洋学の動向を反映するものあることが分かった。過去の学者の事蹟は、今後の日本学・東洋学に参考になる点が多く、その研究成果は既刊の展示図録に収録しえないので、あらためて研究論文として刊行したい。

・岡山地域の漢学・漢学者に関する研究活動：学祖三島中洲の郷里である岡山県倉敷市と二松学舎大学の間で包括協定を締結し、以来、現地での資料調査や成果発表を積み重ねてきた。この取組によって研究内容が拡大・深化し、実業家と漢学(野崎武吉郎・白岩龍平・田辺為三郎ら)、キリスト教と陽明学(山田準、留岡幸助ら)、自由民権運動と漢学(西毅一・小松原英太郎・安達憲忠)など、近代漢学に関する諸問題が浮かび上がった。地元で開催される講演会等に講師を派遣することによって、研究成果を地域に還元した。

・渋沢栄一と漢学に関する研究：学祖三島中洲と親交のあった渋沢栄一に関して、その研究グループ(渋沢栄一記念財団)との共同研究を進め、平成28年度には当該団体と共催でシンポジウムを開催し、渋沢栄一を切り口に近代漢学の諸問題を取り扱った研究成果として刊行した。渋沢栄一には従来歴大な研究蓄積があるものの、「論語と算盤」で知られる渋沢と漢学との関係など、多様な社会福祉活動を支えた思想に関する本格的な研究はなかった。本プロジェクトの取り組みは今後の基礎となるものであり、渋沢栄一記念財団との共催シンポジウムは、本研究プロジェクト終了後も継続していく予定である。

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

2: 情報発信については、以下のような成果があった。

国内外においてワークショップ・シンポジウム・講演会を活発に開催した。こうした活動を通して「近代日本漢学」に関する本学の取り組みの認知度が近年確実に向上してきたことは、国内外の学会からの招聘数の増加に如実に現れている。

研究基盤となる資料収集の進捗にも特筆すべきものがある。購入資料(まとまったものとしては加藤復斎関係資料・紀伝道桑原家資料・孝経コレクション・千字文コレクション・増村朴斎関係資料・野崎萬三郎関係資料・市村瓊次郎関係資料・片山重範関係資料など)の他に、寄贈資料として芳野金陵資料、大沼枕山資料、加藤天淵資料、山田準資料、佐久間峻齋資料・大沼枕山資料等があり、活発な資料整理と研究を行うとともに、補修・資料撮影を行い画像データベースの公開準備を進めた。また整理作業の進捗した資料に関しては、資料展示を行うとともに、その図録を刊行した。

研究成果の公開としては、研究基盤となる基礎資料の整理公刊に成果をあげた。近代漢学の起点として重要な寛政異学禁の時期の儒者平賀中南に関する研究成果をまとめた『近代日本漢学資料叢書 1』、『近代日本漢籍影印叢書 1』は、関連分野の研究者から高い評価を得ている。日本漢文学研究の先駆者柿村重松の遺稿を『近代日本漢学資料叢書 2』として、明治漢詩に関する先駆的研究である木下彪「国分青匡と明治大正昭和の漢詩界」を『近代日本漢学資料叢書 3』として整理公刊した。また漢文教科書資料集と正岡子規の祖父大原観山に関する基礎研究をまとめた。*37 龐大な明治期筆談資料に関して基礎資料を整理公刊した。*38

また、従来公開してきた「日本漢文文献目録データベース」に加えて、新たに「日本漢学画像データベース」を構築して、大学図書館・東アジア学術総合研究所所蔵資料、新収資料の画像を公開した。5年間に撮影した画像は約 182,000 カットであり、今後順次、公開する画像を増やしていく予定である。

漢学関係機関の横断的連携: 関係機関の横断的な連携をはかるべく、全国各地に点在する各機関に呼びかけて平成 29 年度より新たに「漢学者記念館会議」を企画開催した。本研究プロジェクト終了後は、各機関が順番に会場となって継続的に開催する予定である。

3: 人材育成に関しては、以下のような成果があった。

27 年度から 30 年度に採用した研究員は、それぞれ研究職のポストを得て国内外で研究活動に従事している。

研究支援者・研究助手による研究成果も格段に増加している。特に研究助手としてプログラムに参画していた者 3 名が、博士の学位(うち 1 名は 29 年度に新設された学位「博士(日本漢学)」)を取得したことは、特筆すべき成果である。*39

海外の日本学研究者向けの日本漢学セミナーとしては、毎年 8 月に浙江省で開催している日本語教員向けのものや、その他、欧州や中国で適時開催しているものがあり、こうした機会を通して本学に留学する日本漢学を専攻する大学院生はプロジェクト着手後に確実に増加した。これは本学における日本漢学研究の拠点形成上、重要な成果である。本プロジェクトの研究交流を契機として、大学間や研究所間の交流協定の締結に至った例(釜山大学校、魯東大学、中国文化大学)や研究プロジェクト間の覚書を締結した例があり(成均館大学校)、本プロジェクトは大学全体の教育研究の国際化に確実に寄与した。*40

<課題となった点>

人文学全体の危機的な状況が続くなか、プロジェクト関係者の努力にもかかわらず、「日本漢学」のポスト自体の増加には至っていないため、若手研究者をとりまく環境はなお厳しいものがある。本プロジェクトでは古典学の蓄積などを重視しつつも従来の人文学の枠組にのみ捉われることなく、他領域との学際的な研究や諸外国との国際的な研究を推進し「日本漢学」

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

をより開かれたものに刷新していくことを通して、「日本漢学」関連の研究者人口の拡大とホストの増加につながるよう努めていきたい。

<自己評価の実施結果と対応状況>

進捗状況については、研究代表者が全学政策会議、大学運営会議等、学内の上位会議体で定期的に報告を行うとともに、進捗管理表によって管理し、毎年度末に全体計画および個別計画について達成度を算出して評価してきた。

平成 27 年度全体計画達成度 94%

平成 28 年度全体計画達成度 97%

平成 29 年度全体計画達成度 97%

平成 30 年度全体計画達成度 99%

平成 31 年度全体計画達成度 100%

進捗がやや遅れていた『講座 近代日本と漢学』の刊行については、平成 30 年度に構成、内容等の精査・再検討を行い、当初全 12 巻の予定であったものを全 8 巻として刊行したことにより、所定の目標を達成し、より充実した内容となった。

<外部(第三者)評価の実施結果と対応状況>

吾妻重二氏(関西大学)、木村義之氏(慶應義塾大学)、河野貴美子氏(早稲田大学)に外部評価委員を委嘱し、本研究プロジェクトの中間報告書作成時と終了時の研究成果報告書作成時に合わせて、2018 年 4 月と 2020 年 4 月の 2 回外部評価を実施し、概ね高評価を得た(別添資料参照)。

中間評価時における「実業(政治家や企業家)と漢学との関係」について更に事例研究を進めるべきであるとの意見については、実業家としては渋沢栄一・原三溪・杉村正太郎・野崎武吉郎・安川敬一郎等の事例研究を進め、その研究成果の一部を公表した。政治家については、(貴族院議員でもあった)野崎武吉郎に関する科研費共同研究に参加して事例研究を進めるとともに、漢詩文を愛好した政治家とその周辺にあった漢詩人の研究に着手し、漢詩に拠る政治批評で知られた国分青厓に関して『国分青厓と明治大正昭和の漢詩界』を整理刊行するなどの成果を発表した。

「さまざまな媒体を通じた情報発信を行い更に認知度を高める工夫を求める意見」に対しては、『講座 近代日本と漢学』によって近代漢学の概要を一般書のかたちで公刊するとともに、東アジア学術総合研究所に蓄積した一次資料を画像データベースのかたちでオンライン公開することによって対応した。

「西洋語習得・西洋的学知吸収と漢学との関係」の重要性を指摘する意見に対しては、『講座 近代日本と漢学』の第 3 巻「漢学と医学」や第 7 巻「漢学と日本語」を刊行し、医学近代化過程における漢学の影響、近代日本語形成過程における漢学の影響について詳説した。また近世医家伝記資料として、従来未刊の宇津木昆台『日本医譜』を整理刊行した。

上記のような対応を行った結果、終了時における外部評価意見としては、収集・公開した近代漢学資料の貴重性に対する評価とともに、『講座 近代日本と漢学』等の刊行物に対して近代漢学に関する体系的編纂であり、若手研究者養成の機会ともなっている点について高い評価を得た。また「漢学者記念会会議」や倉敷市との交流協定などの活動に対して、かつて漢学の拠点であった地域社会へのフィールドワーク的なアプローチとして画期的であり、漢学研究の拠点にふさわしい活動であるとの評価を得た。

有意義な評価意見をいただいた外部評価委員各位に深甚なる謝意を表するとともに、中間評価において受けた指摘への対応によって、本研究プロジェクトの研究成果がより充実したものとなったことを申し添える。

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

＜研究期間終了後の展望＞

東アジア学術総合研究所日本漢学研究センターでは、研究機関終了後も研究助手(1名)を任用して、引続き日本漢学に関する研究会活動・資料整理・資料調査を継続実施し、センターの機関誌「日本漢文学研究」(査読付)の編集やデータベースの更新などを通して、日本漢学研究の情報発信に当たる。

＜研究成果の副次的効果＞

本学大学院文学研究科への国外からの留学生が増加し、大学院文学研究科中国学専攻では2017年度に博士(日本漢学)の学位を新設した。

科研費(基盤研究C「戦前期に日本国内(内地)・台湾・朝鮮で使用された漢文教科書に関する基礎的研究」2018～2020年)の獲得に繋がった。

3年に亘って継続開催してきた漢学者記念会議を契機として協力関係を構築した安井息軒記念館から、研究助成の申し出があった。

「日本漢学画像データベース」構築事業が山東大学関係者の知るところとなり、山東大学が進める「全球漢籍合璧工程」への協力要請があり、2020年度からその受託研究に着手する予定である。

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) 近代漢学 (2) 明治漢詩 (3) 東洋学
 (4) 中国古典学 (5) 漢文教育 (6) 儒教
 (7) 日中交流史 (8) 夏目漱石

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

＜雑誌論文＞

【事業推進担当者】

【平成27(2015)年度】

1. 町泉寿郎「幕末明治における学術・教学の形成と漢学」『日本漢文学研究』第11号 二松学舎大学日本漢文教育研究推進室 2016.3 133-154頁
2. 江藤茂博「ローカリティの「発見」をめぐる移動の物語」遠藤英樹・松本健太郎編『空間とメディア』ナカニシヤ出版 2015.6
3. 江藤茂博「芥川龍之介『羅生門』『鼻』『芋粥』—語り手の位置と小説の方法」『二松』第30集 二松学舎大学大学院 2016.3 3-19頁
4. 牧角悦子「中国文学という方法」二松学舎大学文学部中国文学科編『中国文学入門 中国古典を学ぶための13章』勉誠出版 2015.4 51-68頁
5. 牧角悦子「中国文学史における近代—古典再評価の意味と限界」『第6回日中学者中国古代史論壇論文集—中国史の時代区分の現在—』中国社会科学院歴史研究所・東方学会 2015.8 285-293頁
6. 牧角悦子「「文」到「文学」的展開——古代変質的標誌——(中文)」中国社会科学院歴史研究所・首都師範大学歴史学院編『第七屆中日学者古代史論壇——中国古代的科学技术與社会·從文学、歷史和科技角度展開的中国古代史研究 會議論文集』2015.9 277-284頁

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

7. 牧角悦子「賈誼の賦をめぐって」『日本中国学会報』第 67 集 日本中国学会 2015.10 31-45 頁
8. 牧角悦子「『文選』編纂に見る「文」意識」『二松学舎大学人文論叢』第 95 輯 二松学舎大学人文学会 2015.10 65-87 頁
9. 牧角悦子「「文」から「文学」への展開」『二松』第 30 集 二松学舎大学大学院紀要 2016.3 51-68 頁
10. 牧角悦子「魯迅と小説 —「速朽の文章」という逆説」『神話と詩 日本聞一多学会報』第 14 号 日本聞一多学会事務局 2016.3 1-32 頁
11. 牧角悦子「講演記録 日本における儒教—その発展過程と特徴—」『日本漢文学研究』第 11 号 二松学舎大学日本漢文教育研究推進室 2016.3 175-187 頁
12. 山口直孝「知識人の責務—大西巨人短編集『五里霧』の空所」『社会文学』第 42 号 日本社会文学会 2015.8 70-81 頁 *3
13. 山口直孝「もてない名探偵金田一耕助—探偵小説と恋愛との微妙な関係」二松学舎大学文学部国文学科編『恋する人文学』翰林書房 2016.3 203-215 頁
14. 田中正樹「宋代士大夫の思想とその展開—宋学と明学—」二松学舎大学文学部中国文学科編『中国文学入門 中国古典を学ぶための 13 章』勉誠出版 2015.4 71-87 頁
15. 野間文史「《春秋左氏傳》其構成與基軸」林慶彰主編『中日韓經學國際學術研討會論文集』台湾萬卷樓圖書公司 2015.4
16. 野間文史「自述《春秋正義校勘記》之撰作」劉玉才・水上雅晴主編『經典與校勘論叢』北京大学出版社 2015.4
17. 野間文史「春秋正義校勘記を作成して」『二松』第 30 集 二松学舎大学大学院紀要 2016.3 69-92 頁
18. 野間文史「訳注 周易正義訓讀 —同人卦・大有卦—」『東洋古典學研究』第 39 集 廣島大學東洋古典學研究會 2015.5 73-90 頁
19. 野間文史「訳注 周易正義訓讀 —謙卦・豫卦—」『東洋古典學研究』第 40 集 廣島大學東洋古典學研究會 2015.10 21-38 頁
20. 小方伴子「物語伝承と歴史書—晋文公の放浪譚と史書『国語』—」二松学舎大学文学部中国文学科編『中国文学入門 中国古典を学ぶための 13 章』勉誠出版 2015.4 21-33 頁
21. 小方伴子「秦鼎『国語定本』に於ける清朝校勘学の成果の導入とその限界—顧千里『国語礼記』の利用を中心に—」『人文論叢』第 95 輯 二松学舎大学人文学会 2015.10 126-153 頁
22. 王宝平「上海西泠印社について—その経営活動を中心に—」『書論』41 書論研究会 2015.8 185-199 頁
23. 王宝平「王愷斎《独臂翁闻见随录》刍议」『文献』2015(6) 2015.12

【平成 28(2016)年度】

24. 町泉寿郎「漢蘭折衷の医学」『杏雨』19 号 武田科学振興財団 2016.4 27-53 頁
25. 町泉寿郎「江戸後期の福山藩と考証医学」『日本医史学雑誌』62 巻 2 号 日本医史学会 2016.6 119-120 頁
26. 町泉寿郎, 上地宏一「「日本漢文文献画像データベース(仮)」の構築について」第 22 回公開シンポジウム「人文科学とデータベース」発表論文集 2017.2 *9
27. 江藤茂博「芥川龍之介「妙な話」論 (大野淳一教授記念号)」『武蔵大学人文学会雑誌』第 48 巻第 2 号 武蔵大学人文学会 2017.3 31-46 頁
28. 江藤茂博「ローカリティの「発見」をめぐる移動の物語 —「ディスカバー・ジャパン」から

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

- 「江古田スケッチ」まで—」二松学舎大学文学部中国文学科編『東アジアにおける都市文化—都市・メディア・東アジア』明德出版社 2017.3 133-152 頁
29. 江藤茂博「魯迅『藤野先生』—「幻燈」と「写真」」『二松』第 31 集 二松学舎大学大学院 2017.3 125, 127-136 頁
 30. 高山節也「佐賀県立図書館蔵蓮池文庫蔵書目録の基礎的考察」『国学院雑誌』117 巻 11 号 国学院大学 2016.11 435-456 頁
 31. 牧角悦子「文学史という方法論」『第 8 回日中学者中国古代史論壇論文集』中国社会科学院歴史研究所・東方学会 2016.5
 32. 牧角悦子「曹操の楽府—「新声」「新詩」の語をめぐる—」『狩野直禎教授米寿記念三国志論文集』汲古書院 2016.9
 33. 牧角悦子「聞一多における詩と学術—詩と神話の親和性—」『神話と詩 日本聞一多学会報』第 15 号 日本聞一多学会事務局 2017.3 1-13 頁
 34. 牧角悦子「古代中国の都市論—理念の王国から国際都市へ—」二松学舎大学文学部中国文学科編『東アジアにおける都市文化—都市・メディア・東アジア』明德出版社 2017.3 10-19 頁
 35. 田中正樹「中国における風景認識の展開と「図経」」二松学舎大学文学部中国文学科編『東アジアにおける都市文化—都市・メディア・東アジア』明德出版社 2017.3 33-59 頁
 36. 稲田篤信「樊噲」考—絵詞として読む『春雨物語』『国文論叢』第 51 号 神戸大学 2016.9
 37. 稲田篤信「和刻本《世説新語補》の三種手批本」『域外漢籍研究集刊』第 14 輯 中華書局 2016.11
 38. 野間文史「周易正義訓讀 —隨卦・蠱卦—」『東洋古典學研究』第 41 集 廣島大學東洋古典學研究会 2016.5 97-113 頁
 39. 野間文史「周易正義訓讀 —臨卦・觀卦—」『東洋古典學研究』第 42 集 廣島大學東洋古典學研究会 2016.10 25-39 頁
 40. 野間文史「平賀中南『春秋稽古』初探」『二松』第 31 集 二松学舎大学大学院紀要 2017.3 5-26 頁 *10
 41. 小方伴子「関脩齡『国語略説』に於ける『国語』道春点改訓の試みとその講述表現」『日本漢文学研究』第 12 号 二松学舎大学日本漢文教育研究推進室 1-25 頁 2017.3
 42. 朴暎美「‘完生’:近代における日本漢学者の老年に関する認識—三島中洲を中心として」『漢文学論集』44 榎域漢文学会 2016.6 *16
 43. 朴暎美「日帝強占期における經学研究の一面 —經学院雑誌を中心として」『漢文学論集』46 榎域漢文学会 2017.2 *16
 44. 王宝平「「失われた 20 年」における中国の日本語教育と日本研究」『失われた 20 年と日本研究のこれから・失われた 20 年と日本社会の変容』国際日本文化研究センター 2017.3
 45. 王宝平「由日本対清交渉看晚清外交二重性—以 1895 年「天津条約」事前交渉为中心」『浙江外国語学院学報』2016.5
 46. 劉岳兵「魏源的『聖武記』在近代日本」閻純徳主編『漢学研究』第 20 集 学苑出版社 2016.5
 47. 劉岳兵「近代日本思想家西晋一郎的中国儒学論」『歴史教学』2016 年第 14 期 歴史教学社(天津) 2016.7 *16
 48. 劉岳兵「船山史論与近代日本知識建構」『深圳大学学报』2017 年第 1 期 2017.1 *16
 49. 劉岳兵「津田左右吉的論著及學術思想在中国的影響—以民国時期为中心」『文献』2017 年第 2 期 2017.3 *16

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

50. 合山林太郎「近世期日本における袁中郎の受容とテキストの問題：山本北山一派の動向を中心に」『雅俗』15号 九州大学 2016.7 13-23 頁

【平成 29(2017)年度】

51. 町泉寿郎「18 世紀瀬戸内地域の医学に関する小考 —讃岐尾池家,備中赤木家の資料を中心に」『香川短期大学紀要』第 45 号 香川短期大学 2017.6 15-28 頁
52. 町泉寿郎「芳野金陵およびその門人知友と清国公使館員の新出の筆談録」『二松学舎創立百四十周年記念論文集』学校法人二松学舎 2017.10 251-288 頁 *17
53. 町泉寿郎「資料紹介 翻印『昌平学分類雑載』—其一—」『日本漢文学研究』第 13 号 二松学舎大学日本漢文教育研究推進室頁 2018.3 133-180 頁
54. 町泉寿郎「資料紹介 白岩龍平書簡(野崎萬三郎・野崎武吉郎宛)の紹介」『二松学舎大学東アジア学術総合研究所集刊』第 48 集 二松学舎大学東アジア学術総合研究所 2018.3 59-120 頁 *4
55. 町泉寿郎「小笠原島開拓碑とその撰文者片山猶存」『人文論叢』100 輯 二松学舎大学人文学会 2018.3 116-154 頁
56. 江藤茂博「美からBへの食文化論：日本食の変遷を概観する」井尻昭夫他編『フードビジネスと地域 食をめぐる文化・地域・情報・流通』ナカニシヤ出版 2018.3 3-15 頁
57. 牧角悦子「文学史という方法論」第 8 回日中学者古代史論壇論文集『中国史学の方法論』汲古書院 2017.5
58. 牧角悦子「聞一多『周易類纂』について」『神話と詩』第 16 号 日本聞一多学会事務局 2018.3 3-14 頁
59. 牧角悦子「文概念の成立における班固の位置——六朝文論の原点として」『六朝学術学会報』第 19 集 六朝学術学会 2018.3 1-17 頁
60. 牧角悦子「花は「咲く」のか「笑う」のか—日中文化交流の一側面—」『日本漢文学研究』第 13 号 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室 2018.3 31-61 頁
61. 牧角悦子「講演記録 古典とその「解釈」—『詩経』を例として—」『二松学舎大学東アジア学術総合研究所集刊』第 48 集 二松学舎大学東アジア学術総合研究所 2018.3 41-57 頁
62. 牧角悦子「建安の樂府と詩——『文選』卷二十九「雜詩」を中心に」『人文論叢』第 100 輯 二松学舎大学人文学会 2018.3 76-96 頁
63. 牧角悦子「夏目漱石の風流—明治人にとっての漢詩」『漢文脈の漱石』二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」 2018.3 63-85 頁 *23
64. 山口直孝「ラウンドテーブル報告記 機構としての探偵小説」『日本文学』第 66 巻第 4 号 日本文学協会 2017.4 62-63 頁
65. 山口直孝「〈白樺派〉という安全装置 —民主主義文学者たちが否認したもの」『有島武郎研究』第 20 号 有島武郎研究会事務局 2017.5 39-50 頁
66. 山口直孝「言論公表をめぐる観念小説—大西巨人『八つの消滅』解題」『季刊メタポゾン』第 11 号 寿郎社 2018.1 124-130 頁 *23
67. 山口直孝「「この人」という他者—大西巨人における佐多稲子」『日本近代文学館年誌 資料探索』13 日本近代文学館 2018.3 46-59 頁 *23
68. 山口直孝「「友情」の中の漢文脈—転換点としての『草枕』」『漢文脈の漱石』二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」 2018.3 105-126 頁 *23
69. 山口直孝「銃後の芸術家小説—横溝正史『雪割草』解題」横溝正史『雪割草』 戎光祥

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

出版 2018.3 413-443 頁

70. 田中正樹「宋代山水表現に於ける視覚と聴覚」 柿田秀樹・若森栄樹編『〈見える〉を問い直す』 彩流社 2017.12 129-143 頁
71. 田中正樹「大西巨人と漢詩文—『神聖喜劇』を題材に」 山口直孝編『大西巨人—文学と革命』 翰林書房 2018.3 286-313 頁 *23
72. 田中正樹「三島中洲の学術 —『尚書私録』と『大學』—」 『陽明学』第 28 号 二松學舎大学東アジア学術総合研究所陽明学研究室 2018.3 85-110 頁
73. 野間文史「周易正義訓讀 —噬嗑卦・賁卦—」 『東洋古典學研究』第 43 集 廣島大學東洋古典學研究會 2017.5 33-50 頁
74. 野間文史「平賀中南『春秋稽古』所引日本人学者の説について」 『二松學舎創立百四十周年記念論文集』 学校法人二松學舎 2017.10 221-249 頁 *10
75. 小方伴子「関脩齡『国語略説』の音注とその依拠資料」 『人文論叢』第 100 輯 二松學舎大学人文学会 2018.3 97-115 頁
76. 加藤国安「幕末の一儒の載道精神—伊豫松山藩儒・大原觀山旧蔵書考」 『日本中国学会報』第 69 集 2017.10 *37
77. 合山林太郎「漱石の漢詩はいかに評価・理解されてきたか? —近世・近代日本漢詩との関係性に着目して」 『漢文脈の漱石』 二松學舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」 2018.3 48-62 頁 *23
78. 朴暎美「日本殖民地期朝鮮における經学研究—様相」 『漢文学論集』46 槿域漢文学会 2017 *16
79. 劉岳兵「近代日本の漢籍翻訳及其意義—以田岡嶺雲的“和訳漢文叢書”為中心」 『南開學報』2017 年第 4 期 2017.8 *16
80. 劉岳兵「清末維新派的明治維新論及其对日本研究的啓示」 『日本問題研究』2017 年第 4 期 2017.8 *16

【平成 30(2018)年度】

81. 町泉寿郎「近世鍼灸医学における東西文化交流」 『斯文』133 斯文会 2018.9 81-99 頁
82. 町泉寿郎「丹溪医学の日本への影響: 曲直瀬流医学とその伝承 (特集 丹溪医学)」 『中医臨床』39(4) 東洋学術出版 2018.12 154-158 頁
83. 町泉寿郎「明治日本における学術・教学の形成と漢学」 『アジア遊学』229 勉誠出版 2019.1 159-170 頁
84. 町泉寿郎「日本の大学における古典学の現況」 江藤茂博編『文学部のリアル、東アジアの人文学』 二松學舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」 2019.3 93-98 頁 *25
85. 江藤茂博「近代日本の文学部形成と「文学部」概念 —「文学概論」を事例に—」 江藤茂博編『文学部のリアル、東アジアの人文学』 二松學舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」 2019.3 7-15 頁 *25
86. 江藤茂博「挑む文学部 —私学の人文学—」 江藤茂博編『文学部のリアル、東アジアの人文学』 二松學舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」 2019.3 72-81 頁 *25
87. 江藤茂博「私立学校の力学×文学部の力学」 江藤茂博編『文学部のリアル、東アジアの人文学』 二松學舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」 2019.3 180-183 頁 *25
88. 牧角悦子「【花開】或是【花笑】—中日文化交流的一側面」 『第 9 回中日学者古代史論壇論文集』 中国社会科学院・日本東方学会 2018.5 70-88 頁

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

89. 牧角悦子「朱自清『詩言志辨』について—近代学術と経学の融合—」『神話と詩』17 日本聞一多学会 2019.3 1-18 頁
90. 牧角悦子「鎮西の儒侠・亀井南冥の為人と学問」『斯文』134 斯文会 2019.3 166-174 頁 *20
91. 牧角悦子「韓愈「秋懐詩」をめぐって」『東アジア学術総合研究所集刊』第 49 集 二松学舎大学東アジア学術総合研究所 2019.3 49-92 頁
92. 牧角悦子「近代日本における文学概念の導入と中国古典学」江藤茂博編『文学部のリアル、東アジアの人文学』二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2019.3 85-92 頁 *25
93. 山口直孝「『複数の神戸を遊歩すること—横溝正史『路傍の人』のモダニズム」日本近代文学会関西支部編集委員会編『〈異〉なる関西』田畑書店 2018.11 313-333 頁
94. 山口直孝「漱石アンドロイド計画—発案から本体完成まで」漱石アンドロイド共同研究プロジェクト編『アンドロイド基本原則』日刊工業新聞社 2019.1 40-55 頁 *29
95. 山口直孝「崇りきれない老婆と猫—中川信夫『亡霊怪猫屋敷』のモダニティ」小山聡子・松本健太郎編『幽霊の歴史文化学』思文閣出版 2019.2 129-152 頁
96. 田中正樹「近代日本の漢学と民主主義—三島中洲の場合—」『東アジア学術総合研究所集刊』第 49 集 2019.3 21-47 頁
97. 小方伴子「汪遠孫『国語校注本三種』の成立過程—陳奐「国語校注本三種序」の訳注を基軸として—」『人文論叢』102 輯 二松学舎大学人文学会 2019.3 55-73 頁
98. 王宝平「中国における域外漢籍研究の現状と展望」『日本語文化論叢』1 芸術観光学研究所 2018.8 9-19 頁
99. 王宝平「中国の高等教育機関における日本語教育について」江藤茂博編『文学部のリアル、東アジアの人文学』二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2019.3 99-112 頁 *25
100. 加藤国安「大原観山の新資料から見る幕末、そして子規へ—観山生誕 200 年記念(上)」松山市立子規記念博物館『季刊子規博だより』37-3 号 2018.12 *37
101. 加藤国安「大原観山の新資料から見る幕末、そして子規へ—観山生誕 200 年記念(下)」松山市立子規記念博物館『季刊子規博だより』37-4 号 2019.3 *37
102. 市來津由彦「朱熹の跋文における「感情」の表象」『國學院中國學會報』64 國學院大學中國學會 2019.3 1-28 頁
103. 伊藤晋太郎「2017 年日本“三国文化”研究論著目録」『内江師範学院学報』33 卷 7 号『内江師範学院学報』編集部 2018.7 24-28 頁
104. 伊藤晋太郎「『三国志演義』における呂蒙像について」『人文論叢』101 輯 二松学舎大学人文学会 2018.10 100-119 頁
105. ヴィグル・マティアス「Umihara Ryō 海原亮. (2014). Edo jidai no ishi shūgyō: gakumon, gakutō, yūgaku 江戸時代の医師修業: 学問・学統・遊学」『Asian Medicine』13(1-2) 381-384 頁
106. ヴィグル・マティアス「Transmettre quels savoirs ? Le rôle des illustrations des vaisseaux d'acupuncture dans la circulation des savoirs médicaux entre l'Asie orientale et l'Europe au dix-septième siècle」『Eurasie』28 Éditions L'Harmattan 2019.2 155-192 頁
107. 合山林太郎「西郷隆盛の漢詩と明治初期の詞華集」『アジア遊学』229 号 勉誠出版 2019.1 144 - 158 頁
108. 徐興慶「世界に開かれた台湾の日本研究」江藤茂博編『文学部のリアル、東アジアの人文学』二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2019.3 127-143 頁 *25

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

- 109.劉岳兵「民国时期“日本马克思主义”研究著作在中国的影响——为思考“马克思主义中国化”提供一些参考资料」杜运辉编『张申府张岱年研究集刊』第4輯 河北人民出版社 2018.6
- 110.劉岳兵「村岡典嗣的“日本精神”论与近代日本思想史学」『歴史教学』総第799期 2018.9
- 111.劉岳兵「新中国成立以来明治维新研究的回顾与展望」『歴史教学』総第799期 2018.12

【平成31(令和元・2019)年度】

- 112.町泉寿郎「漢詩と政治批評—木下彪の「国分青厓と明治大正昭和の漢詩界」」『日本漢文学の射程—その方法、達成と可能性』二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2019.7 318-348頁 *31
- 113.町泉寿郎「漢学とは何か」『講座 近代日本と漢学』第1巻「漢学という視座」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2019.12 8-24頁 *34
- 114.町泉寿郎「地方の漢学塾—新潟地方を中心に」『講座 近代日本と漢学』第2巻「漢学と漢学塾」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.1 156-173頁 *34
- 115.町泉寿郎「二松学舎の漢学教育」『講座 近代日本と漢学』第2巻「漢学と漢学塾」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.1 222-237頁 *34
- 116.町泉寿郎「近世日本社会における医学の「学び」」『講座 近代日本と漢学』第3巻「漢学と医学」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.1 8-23頁 *34
- 117.町泉寿郎「昌平坂学問所—寛政三博士の時代から文久三博士の時代へ」『講座 近代日本と漢学』第4巻「漢学と学芸」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.2 8-23頁 *34
- 118.町泉寿郎「島田重礼と考証学」『講座 近代日本と漢学』第4巻「漢学と学芸」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.2 24-41頁 *34
- 119.町泉寿郎「東京大学と古典講習科」『講座 近代日本と漢学』第4巻「漢学と学芸」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.2 42-62頁 *34
- 120.町泉寿郎・鈴置拓也「翻印『昌平学分類雑載』—其三」『日本漢文学研究』第15号 二松学舎大学日本漢学研究センター 2020.3 61-90頁
- 121.張三妮・町泉寿郎「日韓併合前後の漢文教育—諸教育令と教科書の内容からの考察」『講座 近代日本と漢学』第4巻「漢学と学芸」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.2 178-198頁 *34
- 122.町泉寿郎「高等教育と漢学・漢文」『講座 近代日本と漢学』第5巻「漢学と教育」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.2 90-111頁 *34
- 123.牧角悦子「経学と文学—詩経研究を例として—」『学際化する中国学 第十回日中學者中国古代史論壇論文集』汲古書院 2019.6 133-143頁
- 124.牧角悦子「ヤマトノオロチと九尾のキツネ—日中古代神話学序説」『日本漢文学の射程

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

—その方法、達成と可能性』二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2019.7 30-46 頁 *31

125. 牧角悦子「曹操と楽府(二)—「歌以言志」「歌以詠志」の意味するもの—」『狩野直禎先生追悼 三国志論集』汲古書院 2019.9 83-111 頁

126. 牧角悦子「日本漢文学—その定義と概論」『講座 近代日本と漢学』第1巻「漢学という視座」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2019.12 53-73 頁 *34

127. 牧角悦子「中国近代の尊厳概念—魯迅の小説を通して」『尊厳と社会 (上)』法政大学出版社 2020.3

128. 牧角悦子「講演記録 日本における中国古典文学研究の現状—日本漢学との関連の中で—」『東アジア学術総合研究所集刊』第50集記念号 二松学舎大学東アジア学術総合研究所 2020.3 15-26 頁

129. 牧角悦子「中国文学の成立」『講座 近代日本と漢学』第4巻「漢学と学芸」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.2 117-131 頁 *34

130. 江藤茂博「日本の中等学校における儒学文化—校訓・校歌表象から」『日本漢文学の射程—その方法、達成と可能性』二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2019.7 101-121 頁 *31

131. 江藤茂博「『論語』と近代文学」『講座 近代日本と漢学』第1巻「漢学という視座」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2019.12 229-248 頁 *34

132. 江藤茂博「寺子屋・藩校・漢学塾」『講座 近代日本と漢学』第2巻「漢学と漢学塾」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.1 49-62 頁 *34

133. 江藤茂博「受験漢文」『講座 近代日本と漢学』第5巻「漢学と教育」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.2 234-255 頁 *34

134. 江藤茂博「日中関係と日本学そして共同化する東アジアの学問研究」『講座 近代日本と漢学』第8巻「漢学と東アジア」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.3 317-325 頁 *34

135. 山口直孝「文豪アンドロイドに感じるリアリティと事前知識・信念の関係性の検討」『知能と情報』第31巻第5号 日本知能情報ファジィ学会 2019.10 852-858 頁 *29

136. 山口直孝「夏目漱石が『こころ』を朗読する時—アンドロイドによる文学教育の試み」『二松学舎大学人文論叢』第103輯 二松学舎大学人文学会 2019.11 84-119 頁 *29

137. 山口直孝「大西巨人と漢詩文—『神聖喜劇』を中心に」『講座 近代日本と漢学』第6巻「漢学と近代文学」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.3 264-285 頁 *34

138. 山口直孝「「何もない」現在を見つめること—文芸時評家としての湯地朝雄—」『東アジア学術総合研究所集刊』第50集記念号 二松学舎大学東アジア学術総合研究所 2020.3 55-69 頁

139. 小方伴子「清儒の校勘作業における情報継承の一形態—陳奐『國語』校本と汪遠孫『國語明道本攷異』—」『二松』第34集 二松学舎大学大学院文学研究科 2020.3 3-22 頁

140. 小方伴子「漢文と中国語」『講座 近代日本と漢学』第7巻「漢学と日本語」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.3 67-84 頁 *34

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

- 141.加藤国安「陳文佳君「森春濤論」之創見」華東師範大学出版社 2019.12 1-15 頁
- 142.加藤国安「東海地方の漢学塾」『講座 近代日本と漢学』第 2 卷「漢学と漢学塾」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.1 174-191 頁 *34
- 143.加藤国安「大原観山から安倍能成へ—松山藩藩校と近代思想との接点」『講座 近代日本と漢学』第 5 卷「漢学と教育」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.2 8-30 頁 *34
- 144.市來津由彦「現代日本の中国思想古典学における漢文訓読法の位置 —文言資料読解の現場から」『日本漢文学の射程—その方法、達成と可能性』二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2019.7 47-77 頁 *31
- 145.市來津由彦「日本における中国思想—儒教文化を中心に」『講座 近代日本と漢学』第 1 卷「漢学という視座」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2019.12 25-52 頁 *34
- 146.伊藤晋太郎「関羽の知られざる物語——「関帝聖蹟図」を読む」『ユリイカ』第 51 卷第 9 号 青土社 2019.6 59-65 頁
- 147.伊藤晋太郎「洪満と関帝信仰——『容斎四筆』巻八「寿亭侯印」を手がかりに——」『狩野直禎先生追悼 三国志論集』汲古書院 2019.9 209-230 頁
- 148.伊藤晋太郎「翻訳 軍師中郎将諸葛亮の荊州時代」『狩野直禎先生追悼 三国志論集』汲古書院 2019.9 3-16 頁
- 149.伊藤晋太郎「2018 年日本“三国文化”研究論著目録」『内江師範学院学報』34 卷 11 号 『内江師範学院学報』編集部 2019.11 36-41 頁
- 150.合山林太郎「医者と漢詩文—江戸後期から明治期を中心に」『講座 近代日本と漢学』第 3 卷「漢学と医学」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.1 171-186 頁 *34
- 151.合山林太郎「加藤王香編『文政十七家絶句』の成立過程とその後世への影響」『藝文研究』117 号 慶應義塾大学文学部藝文学会 2019.12 205-223 頁
- 152.キリ・パラモア「「市民宗教」と儒教 —中国の現在、日本の過去と儒教復興」『日本漢文学の射程—その方法、達成と可能性』二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2019.7 212-234 頁 *31
- 153.朴暎美「Digitization of texts in Chinese and Construction of Chinese Character(漢文) Materials Corpus in Japan」『漢文学論集』53 槿域漢文学会 2019.6
- 154.劉岳兵「作为“文明”输出的明治维新—以近代中日文化交流史上的几个事例为中心」『歴史教学』2019 年第 6 期 2019.3
- 155.劉岳兵「中国的日本哲学思想史研究如何从朱谦之“接着讲”—纪念朱谦之先生诞辰 120 周年」楊伯江主編『日本文論』2019 年第 1 輯 社会科学文献出版社 2019.6
- 156.劉岳兵「关于日本,他们在《南开思潮》中说了些什么?—为总结早期南开日本研究的准备阶段所做的准备」祝晓風主編『人文』第一卷 中国社会科学出版社 2019.8
- 157.劉岳兵「百年南开日本研究的传统与特色—写在“百年南开日本研究文库”出版之际」『中華讀書報』2019.9
- 158.劉岳兵「克敌制胜·他山之石·美美与共—中国日本研究的三个境界」『新京報』「書評周刊」2019.12
- 159.劉岳兵「朱谦之两个日本哲学思想史研究框架的示范」宋志勇主編『南开日本研究

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

2019』天津人民出版社 2019.12

〔研究員〕

【平成 28(2016)年度】

- 160.山口智弘「徳川中期における古典解釈学と思想 —伊藤仁斎と荻生徂徠」『東京大学』2016.4 1-347 頁
- 161.山口智弘「安井息軒の経世論 —かの思想の素描として」『日本漢文学研究』第 12 号 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室 2017.3 51-77 頁

【平成 29(2017)年度】

- 162.商兆琦「近代性」についての一試論」『思想史研究』第 23 号 日本思想史・思想論研究会 2017.5 153-162 頁
- 163.商兆琦「翻訳 徐興慶著『大日本史』の史観と「水戸学」の再構築」『日本漢文学研究』第 13 号 二松学舎大学日本漢文教育研究推進室 2018.3 1-30 頁
- 164.商兆琦「対談抄録 〈対談〉日本の近代をつくった東洋のロゴス」『季刊日本主義』第 39 号 白陽社 2017.9 30-43 頁

【平成 30(2018)年度】

- 165.武田祐樹「藤原惺窩と林羅山の交渉再考—『知新日録』受容を考慮に入れて」『日本中国学会報』第 70 集 日本中国学会 2018.10 221-235 頁
- 166.武田祐樹「徳川幕府の宗教政策と『本朝神社考』との連動について—島原図書館肥前島原松平文庫本に着目して」『日本漢文学研究』第 14 号 二松学舎大学日本漢文教育研究推進室 2019.3 1-20 頁
- 167.武田祐樹「翻印『大学和字抄』」『日本漢文学研究』第 14 号 二松学舎大学日本漢文教育研究推進室 2019.3 105-134 頁

〔研究支援者〕

【平成 27(2015)年度】

- 168.川邊雄大「国士館大学体育学部における中国語教育の現状と課題」『国士館大学経済研紀要』第 28 号 国士館大学政経学部附属経済学研究所 2016.3 61-75 頁
- 169.川邊雄大「資料紹介 明治期の琉球における真宗法難事件について」『東アジア文化交渉学会第 7 回シンポジウム 連携の「東アジア時代」への時代—文化交渉学的アプローチを軸に』(下)東アジア文化交渉学会 2015.5 548-555 頁 *4
- 170.川邊雄大「資料紹介 白華文庫蔵・小栗栖香頂「水築小相伝」について」『二松学舎大学東アジア学術総合研究所集刊』第 46 集 二松学舎大学東アジア学術総合研究所 2016.3 109-120 頁 *4
- 171.清水信子「神内家蔵書目録(医書・古典籍之部)」『日本漢文学研究』第 11 号 二松学舎大学日本漢文教育研究推進室 2016.3 189-206 頁

【平成 28(2016)年度】

- 172.川邊雄大「중국과 일본의 교류와『동영시선(東瀛詩選)』편찬에 관한 고찰 가와베 유타(韓国語)」『일본 한문학 연구 동향동아시아 자료총서』제 4 장』성균관대학교, 동아시아 근대한문학연구반 편역 2016.8 127-160 頁
- 173.川邊雄大「日本人居留民と東西本願寺」『アジア遊学』205 号 勉誠出版 2017.2 120-129 頁 *4

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

- 174.川邊雄大「予稿 大谷光瑞の対外政策と研究者たち—中尾万三・岡西為人を例として—」『東アジア文化交渉学会第 8 回国際シンポジウム 東アジア交渉学の新しい歩み』(下) 2016.5 919-920 頁 *4
- 175.川邊雄大「資料紹介 白華文庫蔵・平野五岳「五岳道人 古竹邨舎詩鈔」について」『日本漢文学研究』第 12 号 二松学舎大学日本漢文教育研究推進室 2017.3 153-176 頁 *4
- 176.川邊雄大「研究ノート 「応接筆記」・「藩庁応接記」・「廿二日対辨記」について—真宗法難事件における東本願寺と琉球藩庁の会談記録—」『国士舘大学経済研紀要』第 29 号 国士舘大学政経学部附属経済学研究所) 2017.3 47-85 頁 *4

【平成 29(2017)年度】

- 177.川邊雄大「資料紹介 常福寺蔵・清国書籍販売目録三種について—『増補抱芳閣書目』・『酔六堂発兌書籍価目』・『湖北官書処書目』—」『日本漢文学研究』第 13 号 二松学舎大学日本漢文教育研究推進室 2018.3 181-234 頁
- 178.川邊雄大「資料紹介 早稲田大学図書館蔵・平野五岳『五岳詩集』(市島春城旧蔵)について」『咸宜園教育研究センター研究紀要』第 7 号 日田市教育庁咸宜園教育研究センター 2018.3 49-62 頁 *4
- 179.川邊雄大「資料紹介 真宗法難事件関係資料「琉球国内務省出張所往復書藩庁往復並応接記綴込」について」『国士舘大学経済研紀要』第 30 号 国士舘大学政経学部附属経済学研究所 2018.3 47-187 頁 *4
- 180.清水信子「口頭発表抄録 赤木家の人々とその蔵書」『日本医史学雑誌』第 63 巻第 2 号 日本医史学会 2017.6
- 181.清水信子「資料紹介 二松学舎大学 SRF 所蔵『孝経』諸本目録」『日本漢文学研究』第 13 号 二松学舎大学日本漢文教育研究推進室 2018.3 235-262 頁 *8
- 182.清水信子「資料紹介 二松学舎大学 SRF 所蔵加藤復齋旧蔵資料目録(稿)」『日本漢文学研究』第 13 号 二松学舎大学日本漢文教育研究推進室 2018.3 263-304 頁 *8

【平成 30(2018)年度】

- 183.川邊雄大「伊藤賢道と台湾」『アジア遊学』第 222 号 勉誠出版 2018.8 138-148 *4
- 184.川邊雄大「資料紹介 加藤虎之亮「復興の第一義」について」『三島中洲研究』Vol.7 二松学舎大学日本漢学研究センター 2019.3 159-167 頁 *8
- 185.川邊雄大「翻刻 上海別院「河崎輪番日記」(写本)について」『真宗総合研究所紀要』36 号 大谷大学真宗総合研究所 2019.3 1-80 頁 *4
- 186.川邊雄大「翻刻 実藤恵秀「支那留学生教育に就て」」『国士舘大学経済研究紀要』第 31 号 国士舘大学政経学部附属経済研究所 2019.3 37-67
- 187.清水信子「研究ノート 明治期における二松学舎の漢学教育—二十年代後半から三十年代を中心として」『日本漢文学研究』第 14 号 二松学舎大学日本漢学研究センター 2019.3 81-103 頁
- 188.「二松学舎大学附属図書館所蔵佐久間峻齋旧蔵資料目録(医書之部)」『日本漢文学研究』第 14 号 二松学舎大学日本漢学研究センター 2019.3 165-212 頁 *8
- 189.「口頭発表抄録 難波抱節旧蔵『医事古言』について」『日本医史学雑誌』第 64 巻第 2 号 日本医史学会 2018.5

【平成 31(2019)年度】

- 190.川邊雄大「戦前期台湾の漢文教科書について」『日本漢文学の射程—その方法、達成と可能性』 二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

形成と漢学」2019.7 122-137 頁 *31

- 191.川邊雄大「外地の「漢文」教科書について—台湾を例として」『講座 近代日本と漢学』第4巻「漢学と学芸」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.2 158-177 頁 *34
- 192.川邊雄大「漢学・儒学・仏教—幕末明治期の真宗僧を例として」『講座 近代日本と漢学』第8巻「漢学と東アジア」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.3 48-76 頁 *34
- 193.清水信子「近世後期における地方医家の学問修業—吉益塾に学んだ人々から」『講座 近代日本と漢学 第3巻 漢学と医学』二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.1 187-207 頁 *34
- 194.清水信子「近世後期における地方知識層の書物交流—伊藤忠岱の書写活動を中心として」『医学・科学・博物 東アジア古典籍の世界』勉誠出版 2020.2 381-418 頁
- 195.清水信子「二松学舎大学 SRF 蒐集資料目録(1)」『日本漢文学研究』第15号 二松学舎大学日本漢学研究センター 2020.3 *8
- 196.清水信子,町泉寿郎「口頭発表抄録 佐久間洋行旧蔵書について」『日本医史学雑誌』第65巻第2号 日本医史学会 2020.6 *8
- 197.清水信子,町泉寿郎「口頭発表抄録 新出の古矢知白の著書『傷寒論正文復聖解 附.異名十有五湯辨』」『日本医史学雑誌』第65巻第2号 日本医史学会 2020.6

〔研究助手〕

【平成 27(2015)年度】

- 198.武田祐樹「林羅山の『大学』解釈をめぐる—『大學諺解』と『大學和字抄』の比較検討を通して見た林羅山の朱子学—」『日本漢文学研究』第11号 二松学舎大学日本漢文教育研究推進室 2016.3 27-54 頁
- 199.楊爽「近代における漢文小説の「還流」—依田学海『譚海』と『東海遺聞』の関係を中心に—」『神話と詩』第14号 日本聞一多学会 2016.3 33-58 頁 *3
- 200.阿部和正「『彼岸過迄』における「好奇心」の行方—教科書としての〈新アラビア夜話〉受容—」『日本文学』第65巻第12号 ひつじ書房 2016.12 1-12 頁 *3
- 201.加畑聡子「江戸医学館官立化時期における小坂元祐の経穴学教育」『伝統鍼灸』第43巻1号(86号) 日本伝統鍼灸学会 2016.7

【平成 28(2016)年度】

- 202.平崎真右「田岡嶺雲における「同情」観:雑誌『青年文』を中心とした論理構造と言説環境」『日本漢文学研究』第12号 二松学舎大学日本漢文教育研究推進室 2017.3 79-104 頁
- 203.楊爽「評伝から漢文小説へ—依田学海『譚海』にみる『名家略伝』の翻案方法—」『二松』第31集 二松学舎大学大学院文学研究科 2017.3 29-62 頁 *15
- 204.楊爽「依田学海の『蝦夷風俗彙纂』受容 —「蝦夷三孝子二貞婦」の典拠を中心に—」『東アジア学術総合研究所集刊』第47集 二松学舎大学東アジア学術総合研究所 2017.3 69-101 頁 *15
- 205.楊爽「研究ノート 依田学海と『聊齋志異』—「小野篁」と「蓮花公主」との比較研究を中心に—」『日本漢文学研究』第12号 二松学舎大学日本漢文教育研究推進室 2017.3 119-151 頁 *15

【平成 29(2017)年度】

- 206.阿部和正「漱石漢詩と日本漢詩文を知るためのブックガイド」『漢文教室』第203号 大

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

修館書店 2017.5 16-17 頁 *23

- 207.阿部和正「漢学塾のなかの漱石 —漱石初期文芸における「漢学者」」『漢文脈の漱石』二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2018.3 127-142 頁 *23
- 208.平崎真右「国士館とその時代:私塾、大正、活学の系譜」『国士館史研究年報 楓原』第9号学校法人国士館 2018.3 75-100 頁 *21
- 209.楊爽「漢文白話体小説の書き手「秋風道人」とは誰か—依田学海の創作活動の一面—」『人文論叢』第99輯 二松学舎大学人文学会 2017.10 138-151 頁 *15

【平成 30(2018)年度】

- 210.阿部和正「『野分』における「文学」の変容—修養から煩悶へ—」『文学・語学』第222号 全国大学国語国文学会 2018.5 12-24 頁 *29
- 211.加畑聡子「山崎宗運の経穴学について—『釈骨』と「骨度折量法尺式」を中心に—」『日本医史学雑誌』第64巻4号 2018.12 355-368 頁
- 212.平崎真右「戦時下の郵便メディア—中島一太関連「軍事郵便」を中心に—」『中島醫家資料研究』第1巻第1号 中島醫家資料館 2018.5 27-42 頁
- 213.平崎真右「翻刻・解題『中島姓一統家系』(「中島姓之由来」~「三ノ神子之系」)」『中島醫家資料研究』第1巻第2号 中島醫家資料館 2019.3 44-54 頁

【平成 31(2019)年度】

- 214.加畑聡子「江戸時代経穴学にみる考証と漢蘭折衷—小坂元祐と山崎宗運を事例に—」『講座 近代日本と漢学』第3巻「漢学と医学」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.1 46-60 頁 *34
- 215.加畑聡子「博士論文 江戸時代医学公教育形成期における経穴学の展開 —江戸医学館を中心として—」二松学舎大学 2020.3
- 216.平崎真右「『論語』と近代文学」『講座 近代日本と漢学』第1巻「漢学という視座」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2019.12 229-248 頁 *34
- 217.平崎真右「国語科と漢文科—再編されてゆく漢文—」『講座 近代日本と漢学』第5巻「漢学と教育」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.2 169-192 頁 *34
- 218.平崎真右「近現代日本の風水—散文化する「観相」行為」『講座 近代日本と漢学』第8巻「漢学と東アジア」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.3 143-164 頁 *34
- 219.平崎真右「大学の機能と社会—講義録、通信教育、公開講座—」『大学と地域——持続可能な暮らしに向けた大学の新たな姿』ナカニシヤ出版 2020.3 *13
- 220.平崎真右「和光学園と教育文化—変遷する「地域」へのまなざし—」『大学と地域——持続可能な暮らしに向けた大学の新たな姿』ナカニシヤ出版 2020.3 *13
- 221.平崎真右「勝部謙造と修身教育—『新制中等修身書』を中心として—」『二松学舎大学東アジア学術総合研究所集刊』第50集記念号 二松学舎大学東アジア学術総合研究所 2020.3 27-54 頁 *13
- 222.平崎真右「修身を語るクリスチャン—勝部謙造と修身教科書—」『桃山学院年史紀要』第39号 桃山学院 2020.3 *13
- 223.伊豆原潤星「文学を“散歩”する——文学を通じた地域再編の試み」『大学と地域——持続可能な暮らしに向けた大学の新たな姿』ナカニシヤ出版 2020.3
- 224.伊豆原潤星「田山花袋と漢学——創作の淵源にあるもの」『講座 近代日本と漢学』第

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

6 卷「漢学と近代文学」 二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」 2020.3 99-120 頁 *34

<図書>

〔事業推進担当者〕

【平成 27(2015)年度】

1. 戸内俊介,小方伴子,野間文史,牧角悦子,田中正樹,伊藤晋太郎,武永尚子,張佩茹,高澤浩一,福島一浩,町泉寿郎,高山節也,家井眞『改訂新版 中国学入門—中国古典を学ぶための13章』 勉誠出版 2015.4
2. 加藤国安編『明治漢文教科集成第Ⅲ期』第6巻・第7巻 不二出版 2015.9 *2
3. 加藤国安編『明治漢文教科集成 第Ⅲ期』解説・総索引 不二出版 2015.9 *2
4. 町泉寿郎,清水信子,寺内進『芳野金陵と幕末日本の儒学』 二松学舎大学図書館大学資料展示室 2015.10 *8
5. ゴーブル・エドムンド・アンドリュウ,町泉寿郎,鈴木達彦,清水信子,小曾戸洋,平松賢二,天野陽介,ドロッド・エドワード,ヴィグル・マティアス,福田安典,星野卓之,鈴木達彦,下坂憲子,石上阿希,岩間眞知子,池田峯公『曲直瀬道三と近世日本医療社会』 武田科学振興財団杏雨書屋 2015.10
6. 鈴木健一,深沢眞二,堀川貴司,山本啓介,宮本圭造,澤井啓一,川平敏文,西田正宏,田中潤,海野圭介,高木浩明,町泉寿郎,松永知海,門脇むつみ,柳沢昌紀,田代一葉,田中仁,阪口弘之,小林千草『形成される教養—十七世紀日本の〈知〉』 勉誠出版 2015.11
7. 中島洋一,松村紀明,木下浩,梶谷真司,町泉寿郎,清水信子,鈴木則子,平崎真右,黒澤学,板野俊文,田中健二,中島洋一『備前岡山の在村医 中島家の歴史』 思文閣出版 2015.11
8. 秋成研究会(稲田篤信分担執筆)編『上田秋成研究事典』 笠間書院 205-215 頁 2016.1
9. 西江錦史郎,町泉寿郎,溝田直己,高山秀嗣,川邊雄大,中村聡『浄土真宗と近代日本: 東アジア・布教・漢学』 勉誠出版 2016.3 *4
10. 湯浅邦弘,横田恭三,中村未来,佐藤一好,宇田川幸則,浅見洋二,谷口高志,草野友子,鶴成久章,川野明正,近藤浩之,町泉寿郎,合山林太郎,陶徳民『テーマで読み解く中国の文化』 ミネルヴァ書房 2016.3
11. 多田一臣,山崎正伸,原由来恵,小山聡子,磯水絵,五月女肇志,白井雅彦,稲田篤信,中川桂,増田裕美子,五井信,瀧田浩,荒井裕樹,谷口貢,山口直孝,松本健太郎,江藤茂博,塩田今日子,渡邊了好,森野崇,林謙太郎,改田明子『恋する人文学: 知をひらく 22 の扉』 翰林書房 2016.3
12. 加藤国安『子規全集』未収録・自筆漢詩抜萃写本:『随録詩集』等翻刻・解題 ((科学研究費補助金(基盤研究 C)研究成果報告書, 平成 24-27 年度)) 2016.3

【平成 28(2016)年度】

13. 町泉寿郎,川邊雄大,武田祐樹『平成 28 年度二松学舎大学資料展示室企画展図録 三島中洲と近代 其四 —小特集 戦争と漢学』 二松学舎大学附属図書館 2016.5 *8
14. 井上泰至,合山林太郎,鈴木彰,向後恵里子,斎藤英喜,塩谷菊美,延広真治,丹羽みさと,神

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

- 林尚子,鈴木俊幸,鈴木広光,山田俊治,磯部敦,青山英正,前田雅之,山本嘉孝,古田島洋介,大東和重,熊倉千之,臼田雅之,上原麻有子『幕末明治:移行期の思想と文化』 勉誠出版 2016.5
15. 加藤国安他『杜甫全訳詩注(一)』 講談社学術文庫 2016.6
16. 高山節也編『佐賀県立図書館蔵蓮池鍋島藩関係書籍目録対照表』 二松学舎大学日本漢文教育研究推進室 2016.7
17. 井尻昭夫,江藤茂博,大崎紘一,松本健太郎『ショッピングモールと地域 地域社会と現代文化』 ナカニシヤ出版 2016.7
18. 井上泰至,倉員正江,金時徳,鈴木彰,川平敏文,佐伯真一,佐藤貴裕,久保誠,吉村雅美,前田雅之,勢田道生,寺尾美保,田中康二,濱野靖一郎,大島明秀,三ツ松誠,藤田大誠,樋口大祐,日置貴之,合山林太郎『近世日本の歴史叙述と対外意識』 勉誠出版 2016.7
19. 朴暎美他『日本漢文学研究動向』 成均館大学校出版部 2016.8 *16
20. 朴暎美『東アジア学入門』 成均館大学校出版部 2016.8 *16
21. 朴暎美他『近代転換期東アジア伝統知識人の対応と新しい思想の形成』 成均館大学校出版部 2016.8 *16
22. 朴暎美他『潘佩珠自叙傳』 成均館大学校出版部 2016.8
23. 沈伯俊,大上正美,堀池信夫,石井仁,小林春樹,牧角悦子,和久希,高橋康浩,柳川順子,渡邊義浩,大村和人,矢田博士,中川諭,仙石知子,伊藤晋太郎,長尾直茂『三国志論集:狩野直禎先生米寿記念』 汲古書院 2016.9
24. 劉岳兵他『日本儒学と思想史研究—王家驊先生紀念專輯』天津人民出版社 2016.9
25. 王宝平編『日本蔵晚清中日朝筆談資料:大河内文書』全 8 冊 浙江古籍出版社 2016.12 *38
26. 木村昌人,町泉寿郎,濱野が靖一郎,桐原健真,于臣,朴暎美,見城悌治,任夢溪,丁世絃著『渋沢栄一は漢学とどう関わったか:「論語と算盤」が会える東アジアの近代』(渋沢栄一と「フィランソロピー」) ミネルヴァ書房 2017.2 *16
27. 牧角悦子,伊藤晋太郎,田中 正樹,植松宏之,山邊進,松本健太郎,谷島貴太,江藤茂博『東アジアにおける都市文化:都市・メディア・東アジア』 明德出版社 2017.3
28. 野間文史編『平賀中南『春秋集箋』』(近代日本漢籍影印叢書 1) 二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」 1-231 頁 2017.3 *10
29. 稲田篤信編『澤井常四郎『経学者平賀晋民先生』』(近代日本漢学資料叢書 1) 二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」 1-673 頁 2017.3 *10
30. 江藤茂博,山口直孝,浜田知明『横溝正史研究 6』 戎光祥出版 2017.3
- 【平成 29(2017)年度】**
31. 朴暎美他『在朝日本人日本語文学史序説』 亦楽出版社 2017.6
32. 河野貴美子,Wiebke Denecke,新川登亀男,陣野英則,谷口真子,宗像和重,堀川貴司,海野圭介,新美哲彦,佐藤勝明,福島理子,池澤一郎,鈴木正信,下村周太郎,尾上陽介,水口幹記,阿部龍一,小川豊生,町泉寿郎,一戸涉,鳥井裕美子,金時徳,後藤昭雄,合山林太郎,小林文雄,八鍬友広,松田泰代,岩坪充雄,佐々木孝浩,小井土守敏,金文京,三木雅博,鈴木彰,山田俊治『日本「文」学史』第 2 冊 勉誠出版 2017.6
33. 山寺美紀子,長谷部剛,矢羽野隆男,横山俊一郎,中谷伸生,町泉寿郎,吾妻重二,有馬卓也

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

『泊園書院と漢学・大阪・近代日本の水脈』(関西大学創立 130 周年記念泊園書院シンポジウム論文集) 関西大学出版部 2017.8

34. 遠藤英樹,松本健太郎,江藤茂博『メディア文化論 第 2 版』ナカニシヤ出版 2017.8

35. 王宝平『東方研究集刊』第 1 輯 浙江工商大学出版社 2017.8

36. 朴暎美他『東西洋古典人物誌』宝庫社 2017.9

37. 王宝平主編『東亜比較文化論集』西南師範大学出版社 2017.9

38. 町泉寿郎編『柿村重松『松南雜草』』(近代日本漢学資料叢書 2) 二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」1-276 頁 2017.10 *20

39. 野間文史訳注『春秋左伝正義譯注第一冊(序・隱公・桓公篇)』明德出版社 2017.10

40. 野間文史訳注『春秋左伝正義譯注第二冊(莊・閔・僖公篇)』明德出版社 2017.10

41. 町泉寿郎,清水信子『三島中洲と近代—其五— 二松学舎の漢学教育』二松学舎大学附属図書館 2017.11 *8

42. 山口直孝,橋本あゆみ,石橋正孝編『歴史の総合者として:大西巨人未刊行批評集成』幻戯書房 2017.11

43. キース・モクシー,アンヌ＝マリー・ボネ,ロール・シュワルツ＝アレナレス,松本健太郎,山口誠,田中正樹,小林頼子,青山愛香,工藤達也,阿部明日香,福田美雪,柿田秀樹,片山亜紀,若森栄樹『〈見える〉を問い直す』彩流社 2017.12

44. 見城悌治,桐原健真,沖田行司,姜克實,町泉寿郎,見城悌治,酒井一臣,辻直人,岡本佳子,陶徳民,山口輝臣『帰一協会の挑戦と渋沢栄一:グローバル時代の「普遍」をめざして』(渋沢栄一と「フィランソロピー」) ミネルヴァ書房 2018.2

45. 町泉寿郎他『医家肖像集:杏雨書屋所蔵 2 編』武田科学振興財団 2018.3

46. 町泉寿郎,川邊雄大『新収資料展 近代漢学の諸相 二松大学資料展示室企画展図録』2018.3 *8

47. 齋藤希史,北川扶生子,合山林太郎,牧角悦子,野網摩利子,山口直孝,阿部和正,木戸浦豊和,藤本晃嗣『漢文脈の漱石』二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2018.3 *14

48. 小曾戸洋,星野卓之,天野陽介,荒川緑,大津幸恵,岡井慎吾,加畑聡子,小林健二,左合昌美,高橋大希,土生エリカ,林孝信,福本佳之,宮川浩也,町泉寿郎『日本医家伝記事典 一字津木昆台『日本医譜』—』日本内経医学会・二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」・北里大学東洋医学総合研究所医史学研究部 解題,595-617 頁 2018.3

49. 江藤茂博,平崎真右,楊爽,岸田芳朗,天野雅敏,木村史明,井尻昭夫,大石貴之,遠藤英樹,松本健太郎,河田学,山崎裕行,李艶萍,張元,大塚泰造,海野裕,箕輪弘嗣,大崎紘一,渡邊憲二『フードビジネスと地域:食をめぐる文化・地域・情報・流通』ナカニシヤ出版 2018.3

50. 江藤茂博,牧角悦子,町泉寿郎,秋葉利治,Peng,Pamela Hsiaowen『論語の学校:時習編』研文社 2018.3

51. 浜井武,川光俊哉,多田一臣,絳秀実,阿部和正,石橋正孝,伊豆原潤星,坂堅太,田中正樹,橋本あゆみ,竹峰義和,山口直孝,田代ゆき,齋藤秀昭『大西巨人:文学と革命』翰林書房 2018.3

【平成 30(2018)年度】

52. 牧角悦子著『経国と文章 —漢魏六朝文学論—』汲古書院 2018.6

53. 町泉寿郎,川邊雄大,清水信子『三島中洲と近代 —其六— —近代日本と岡山の漢学

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

者たち』二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2018.7 *8

54. 伊藤晋太郎著『「関帝文献」の研究』汲古書院 2018.9
55. 町泉寿郎,清水信子『明治一五〇年 漢学の近代 —明治の精神に学ぶ』二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2018.12 *8
56. 坂井建雄,永島剛,町泉寿郎,海原亮,青木歳幸,澤井直,逢見憲一,渡部幹夫,勝井恵子『医学教育の歴史:古今と東西』法政大学出版局 2019.3
57. 江藤茂博編『文学部のリアル、東アジアの人文学』二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2019.3 *25
58. 野間文史,川邊雄大,町泉寿郎『加藤虎之亮『周禮經注疏音義校勘總説』』(近代日本漢学資料叢書 3) 二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2019.3 *8

【平成 31(2019)年度】

59. 町泉寿郎,ヴィグル・マティアス,清水信子『レオン・ド・ロニーと19世紀欧州東洋学』二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2019.6 *8
60. 王小林,町泉寿郎編『日本漢文学の射程 —その方法、達成と可能性』二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2019.7 *31
61. 町泉寿郎編『木下彪『国分青厓と明治大正昭和の漢詩界』』(近代日本漢学資料叢書 4) 二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2019.7 *8
62. 劉岳兵『南開日本研究(1919-1945)』南開大学出版社 2019.7
63. 劉岳兵『近代中日思想文化交渉史研究』江蘇人民出版社 2019.8
64. 合山林太郎『大沼枕山・鶴林と永井荷風『下谷叢話』』二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2019.9 *8
65. 牧角悦子,町泉寿郎編『講座 近代日本と漢学』第1巻「漢学という視座」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2019.12 *34
66. 江藤茂博,町泉寿郎編『講座 近代日本と漢学』第2巻「漢学と漢学塾」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.1 *34
67. 町泉寿郎編『講座 近代日本と漢学』第3巻「漢学と医学」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.1 *34
68. 町泉寿郎編,武田祐樹解題『川田 剛『甕江文稿』』(近代日本漢籍影印叢書 2) 二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.2 *20
69. 牧角悦子,町泉寿郎編『講座 近代日本と漢学』第4巻「漢学と学芸」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.2 *34
70. 江藤茂博,加藤国安編『講座 近代日本と漢学』第5巻「漢学と教育」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.2 *34
71. 加藤国安著『大原観山詩集 —子規の外祖父・藩校生の日々』二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.3 *37
72. 加藤国安著『伊豫松山藩儒 大原観山旧蔵本・古文書総覧』二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.3 *37
73. 山口直孝編『講座 近代日本と漢学』第6巻「漢学と近代文学」二松学舎大学私立大学

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

<p>戦略的研究基盤形成支援事業 近代日本の「知」の形成と漢学 2020.3 *34</p> <p>74. 佐藤進,小方伴子編『講座 近代日本と漢学』第 7 巻「漢学と日本語」 二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 近代日本の「知」の形成と漢学 2020.3 *34</p> <p>75. 江藤茂博編『講座 近代日本と漢学』第 8 巻「漢学と東アジア」 二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 近代日本の「知」の形成と漢学 2020.3 *34</p> <p>76. 井尻昭夫,江藤茂博,大崎紘一,三好宏,松本健太郎『大学と地域』 ナカニシヤ出版 2020.3</p> <p>77. 山口直孝『展示図録 作家・大西巨人—「全力的な精進」の軌跡』 二松学舎大学附属図書館 2020.3 *23</p> <p>【研究員】</p> <p>78. 武田祐樹『林羅山の学問形成とその特質—古典注釈書と編纂事業』研文出版 2019.2</p> <p>【研究支援者】</p> <p>79. 清水信子,武田祐樹他『企画展 解体新書展—ニッポンの「医」の歩み 1500 年図録』公益財団法人東洋文庫 2016.1</p> <p>80. 荒川正晴,池野範男,栄新江,孟憲実,劉安志,裴成国,許飛,朱玉麒,猪飼祥夫,荒見泰史,高井龍一,荻原裕敏,笠井幸代,慶昭蓉,田衛衛,石見清裕,金子民雄,小島康誉,柴田幹夫,高本康子,加藤斗規,闕正宗,川邊雄大,野世英水,菅澤茂,門司尚之,橋口和真,白須淨眞『シルクロードと近代日本の邂逅:西域古代資料と日本仏教』 勉誠出版 2016.3</p> <p>81. 川邊雄大『体育系学生のための初級中国語』 朝日出版社 2018.4</p> <p>82. 川邊雄大『体育・スポーツ系のための入門中国語』 朝日出版社 2019.1</p> <p>83. 真柳誠,浦山きか,梁嶸(黄昱訳),朴現圭(黄昱訳),梁永宣・李敏(小野泰教訳),金哲央,小野泰教,吉田忠,祝平一(高津孝訳),任正嫻,大澤顯浩,陳捷,廖肇亨(千賀由佳訳),高津孝,久保輝幸,福田安典,平野 恵,清水信子,鈴木俊幸『医学・科学・博物 東アジア古典籍の世界』 勉誠出版 2020.2</p>
--

<学会発表>

<p>【事業推進担当者】</p> <p>【平成 27(2015)年度】</p> <p>1. 町泉寿郎「筆談 幕末遺老芳野金陵と清国公使館員の筆談録」 シンポジウム「漢字文化とコミュニケーション —筆談・現代アート・映像」 於:浙江工商大学 2015.10.30 *5</p> <p>2. 町泉寿郎「Leon de Rosny Collection 管見」 リール第三大学ワークショップ 於:リール第 3 大学 2016.2.12 *7</p> <p>3. 町泉寿郎「漢字文化とコミュニケーション —新出の芳野金陵と清国公使館員の筆談録」 SRF 国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」 於:倉敷市 2016.3.12 *5</p> <p>4. 町泉寿郎「趣旨説明 —二松学舎の漢学教育を例として」 SRF 国際シンポジウム「東アジアの教育制度のなりたちと漢学」 於:台湾師範大学 2016.3.30 *5</p> <p>5. 江藤茂博「日本の近代高等教育における中国学の展開と現在」 中国三省大学日本語教育学会 於:安徽大学 2015.10.17 *2</p> <p>6. 江藤茂博「映像 物語空間のなかの漢字文化」 シンポジウム「漢字文化とコミュニケーション —筆談・現代アート・映像」 於:浙江工商大学 2015.10.30 *5</p> <p>7. 江藤茂博「近代日本の教育・文化と漢学塾」 SRF 第 2 回研究報告会 於:二松学舎大学 2016.3.22 *2</p>
--

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

8. 江藤茂博「方法としての漢学者・漢学塾」 SRF 国際シンポジウム「東アジアの教育制度のなりたちと漢学」 於:福華国際文教会館(台湾大学) 2016.3.29 *5
9. 牧角悦子「文と文学—古代変質の指標として」 第 7 回日中古代史論壇 於:首都師範大学(北京) 2015.8.18
10. 牧角悦子「曹操と楽府—「新詩」「新声」の話をめぐって」 第 10 回三国志学会大会 於:龍谷大学 2015.9.5
11. 牧角悦子「黎明期の中国学 —近代学術における日中の情報交換」 シンポジウム「近代東アジアの思想と文化」 於:嘉興学院 2015.10.31
12. 牧角悦子「リール図書館蔵レオン・ド・ロニー旧蔵書漢籍資料について」 リール第三大学ワークショップ 於:リール第 3 大学 2016.2.12 *7
13. 牧角悦子「山田方谷と閑谷学校」 SRF 国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」 於:倉敷市 2016.3.13 *5
14. 牧角悦子「山田方谷の教育実践 —閑谷学校との関連から」 SRF 国際シンポジウム「東アジアの教育制度のなりたちと漢学」 於:台湾師範大学 2016.3.30 *5
15. 山口直孝「〈白樺派〉という安全装置——民主主義文学者たちが否認したもの」 有島武郎研究会第 58 回全国大会 於:二松学舎大学 2015.11
16. 田中正樹「宋代山水表現に於ける視覚と聴覚」 第 27 回獨協インターナショナル・フォーラム「見えるを問いなおす—アート、イメージ、テキスト」 於:獨協大学 2015.12
17. 田中正樹「大西巨人と漢詩文—『申請喜劇』を題材に—」 公開ワークショップ「大西巨人の現在—変革の精神の系譜—」 於:二松学舎大学 2016.2.27 *3
18. 加藤国安「明治漢文教科書に見る備中人の漢学」 SRF 国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」 於:倉敷市 2016.3.13 *5
19. 朴暎美「日治期朝鮮の漢文教科書における日本漢学の様子」 SRF 国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」 於:倉敷市 2016.3.13 *5
20. 王宝平「三島中洲と明治前期に来日した中国人」 SRF 国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」 於:倉敷市 2016.3.13 *5
21. 合山林太郎「日本漢文学プロジェクトの現状—見えてきた課題と今後の展望—」 SRF 第 1 回テーブルスピーチ 於:二松学舎大学 2015.12.17
22. 合山林太郎「近代の漢詩詞華集と教育との関係」 SRF 国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」 於:倉敷市 2016.3.13 *5

【平成 28(2016)年度】

23. 町泉寿郎「東京大学文学部から見た哲学・宗教学・倫理学の形成と井上哲次郎」 釜山大学校佔畢齋研究所主催シンポジウム 於:釜山大学校 2016.7.14 *16
24. 町泉寿郎「『医経千文』からみた芦東山の医学」 芦東山生誕 320 年・芦東山記念館開館 10 周年記念講演会 於:一関市大東コミュニティーセンター 2016.11.5
25. 町泉寿郎「二松学舎の日本漢学研究に関する取り組み」 SRF 主催・上海師範大学共催シンポジウム 於:上海師範大学 2016.12.25 *11
26. 町泉寿郎「日本漢学簡介」 上海師範大学大学院講演会 於:上海師範大学 2016.12.29 *11
27. 町泉寿郎「渋沢栄一と三島中洲の接点」 国際シンポジウム「東アジアの近代化と漢学」 於:パリ第 7 大学 2017.2.11 *18
28. 牧角悦子「文学史という方法論」 第 8 回日中学者中国古代史論壇 2016.5.20
29. 牧角悦子「山田方谷と閑谷学校」 第 122 回三島中洲研究会 於:二松学舎大学 2016.5.28 *12
30. 牧角悦子「中国の近代学術」 国際シンポジウム「東アジアの近代化と漢学」 於:パリ第

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

7 大学 2017.2.11 *18
31. 牧角悦子「夏目漱石の『風流』—明治人にとっての漢詩」SRF 主催国際シンポジウム「漢文脈の漱石」於:二松学舎大学 2017.3.11 *14
32. 山口直孝「英国留学時代の漱石と『夢十夜』」夏目漱石没後百年記念文化講演会&声のことばミニ劇場 於:神田外国語学院アッセンブリー・ホール 2016.10 *14
33. 山口直孝「写生の系譜—子規・漱石・虚子」『書教』700 号記念講演会 於:明治大学 2016.11 *14
34. 山口直孝「地図がはぐくむ想像力—横溝正史と軽井沢」柏市立図書館・柏市内四大学図書館合同企画展「地図」関連講演会 於:二松学舎大学 2016.11
35. 稲田篤信「唐音・訓読・国字解 —平賀中南の読書論—」第3回 SRF 研究報告会 於:二松学舎大学 2016.4.28
36. パラモア・キリ「20 世紀政治儒教の世界的様子」国際シンポジウム「東アジアの近代化と漢学」於:パリ第7大学 2017.2.11 *18
37. 朴暎美「近代期における韓国経学研究について」成均館大学東アジア学院人文韓国(HK)研究所 国際学術会議 2016.8.23 *16
38. 朴暎美「近代期における朝鮮と日本の女性用漢文教材中の‘女性’」韓国古典女性文学会秋季学術大会 2016.10.29 *16
39. 朴暎美「細井肇の朝鮮古書刊行事業について」大東漢文学会秋季学術大会 2016.11.7 *16
40. 朴暎美「文明開化期日本の漢学者三島中洲」釜山大学校佔畢齋研究所 2017.1.18 *16
41. 朴暎美「渋沢栄一を偲ぶ朝鮮の人々」SRF・公益財団法人渋沢栄一記念財団主催シンポジウム 於:倉敷市立美術館 3 階講堂 2017.1.31 *18
42. 合山林太郎「幕末期の諫早における医と漢詩:野口良陽、松陽父子を例に」漢蘭折衷に関する総合的研究シンポジウム 2017.3.9
43. 合山林太郎「蔵書を用いた漱石漢詩読解の試み—所載文献に焦点をあてて」SRF シンポジウム「漢文脈の漱石」於:二松学舎大学 2017.3.11 *14
【平成 29(2017)年度】
44. 町泉寿郎「幕末遺老芳野金陵と清国公使館員の新出の筆談録」東亜筆談読書会 於:浙江大学 2017.5.5 *16
45. 町泉寿郎「前近代と近代の学問の断絶 易と漢方」易学連合会主催第5回シンポジウム「易学の展開と近代 易を現代に生かす」於:二松学舎大学 2017.6.25 *24
46. 町泉寿郎「日本の大学における古典学の現況」SRF シンポジウム「文学部の現在」於:二松学舎大学 2017.7.8 *25
47. 町泉寿郎「漢学・漢学者・漢学塾に関する持続可能なコンソーシアムづくりをめざして」SRF・早稲田大学中国古籍文化研究所共催「漢学者記念館会議」於:二松学舎大学 2017.7.29 *25
48. 町泉寿郎「日本近代の『漢学』教育・研究をめぐって —制度」大連大学創立 30 周年記念シンポジウム 於:大連大学 2017.9.16 *22
49. 町泉寿郎「近代日本漢学と東アジア」SRF・成均館大学国際学術交流会 於:二松学舎大学 2017.9.21
50. 町泉寿郎「近代日本の知の形成と漢学」プロジェクトの活動状況 SRF・鄭州大学国際学術交流会 於:二松学舎大学 2017.9.22
51. 町泉寿郎「以医学史観点審視日本漢学特色」東亜漢学国際学術研究会 於:佛光大学 2017.10.7

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

52. 町泉寿郎「二松学舎大学における近代漢学研究の取り組み」中国日語教学研究会浙皖贛分会 2016 年会 於:江西師範大学 2017.10.22
53. 町泉寿郎「蝦夷地・小笠原島における漢学との関わり」東アジア日本研究者協議会第 2 回国際学術大会 於:南開大学 2017.10.29
54. 町泉寿郎「Modification of Kanbun Studies in Meiji Japan」Confucian Modernity as Japanese Experience in East Asian Context 於:京都大学 2017.11.3
55. 町泉寿郎「近代日本の教科書と漢文」SRF・北京第二外国語大学・釜山大学校共催シンポジウム 於:北京第二外国語大学 2017.11.5
56. 町泉寿郎「日本漢学の過去と現在」SRF・魯東大学共催シンポジウム 於:魯東大学 2017.11.7 *24
57. 町泉寿郎「芳野金陵及びその門人知友と清国公使館員による新出の筆談録」浙江大学主催・SRF 共催シンポジウム「東アジア筆談研究」於:浙江大学 2017.11.18 *24
58. 町泉寿郎「西村天囚の近代漢学における意義について」第 27 回懷徳堂研究会 於:大阪大学 2017.12.3
59. 町泉寿郎「小笠原開拓碑をめぐる明治期漢学者たち」第 12 回台湾大学日本語文創新国際学術研討会 於:台湾大学 2017.12.9
60. 町泉寿郎「近代岡山の実業家と漢学者」SRF・公益財団法人渋沢栄一記念財団主催シンポジウム 於:新溪園(倉敷市) 2018.1.29
61. 町泉寿郎「レオン・ド・ロニー旧蔵の和漢古典籍について」SRF レオン・ド・ロニー資料調査報告会 於:ライデン大学 2018.2.24 *26
62. 町泉寿郎「近代日本の漢学と渋沢栄一の公益事業」SRF 近代漢学ワークショップ 於:ボルドー大学 2018.2.28
63. 江藤茂博「日本の文学部形成」SRF シンポジウム「文学部の現在」於:二松学舎大学 2017.7.8 *25
64. 江藤茂博「日本近代の「漢学」教育・研究をめぐる ―文芸― 大連大学創立 30 周年記念シンポジウム 於:大連大学 2017.9.16 *22
65. 江藤茂博「日本アニメーション史と東アジア」SRF・北京第二外国語大学・釜山大学校共催シンポジウム 於:北京第二外国語大学 2017.11.5
66. 江藤茂博「近代日本の高等教育・学問形成と漢学そして財界人」SRF・魯東大学共催シンポジウム 於:魯東大学 2017.11.7 *24
67. 江藤茂博「近代日本の漢学と文学・教育・学問―教育を中心に―」SRF 近代漢学ワークショップ 於:ボルドー大学 2018.2.28
68. 牧角悦子「易学の形成(古代～中世まで)」易学連合会主催第 5 回シンポジウム「易学の展開と近代 易を現代に生かす」於:二松学舎大学 2017.6.25 *24
69. 牧角悦子「研究としての漢学―漢学から中国学へ―」大連大学創立 30 周年記念シンポジウム 於:大連大学 2017.9.16 *22
70. 牧角悦子「近代日本における中国古典学と「漢文」 ―訓読から音読へ―」SRF・北京第二外国語大学・釜山大学校共催シンポジウム 於:北京第二外国語大学 2017.11.5 *8
71. 牧角悦子「日本における儒教 ―その発展過程と特徴―」SRF・魯東大学共催シンポジウム 於:魯東大学 2017.11.7 *24
72. 牧角悦子「レオン・ド・ロニー旧蔵の漢籍について」SRF レオン・ド・ロニー資料調査報告会 於:ライデン大学 2018.2.24 *26
73. 牧角悦子「近代日本における漢学の変容」SRF 近代漢学ワークショップ 於:ボルドー大学 2018.2.28
74. 山口直孝「物としての〈資料〉が語ること―大西巨人・横溝正史旧蔵資料の調査から」昭和文学会第 60 回研究集会 於:実践女子大学 2017.5.13 *23

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

75. 山口直孝「歴史の総合者とは何か？」『歴史の総合者としてー大西巨人未刊行批評集成』刊行記念トークセッション 丸善池袋店 2017.11.10 *23
76. 山口直孝「崇りきれない老婆と猫ー中川信夫『亡霊怪猫屋敷』のモダニティ」 二松学舎大学東アジア学術総合研究所共同研究プロジェクト「幽霊の歴史文化学」公開ワークショップ 於:二松学舎大学 2018.2
77. 田中正樹「易学の展開(近世以降)」 易学連合会主催第 5 回シンポジウム「易学の展開と近代 易を現代に生かす」 於:二松学舎大学 2017.6.25 *24
78. 田中正樹「三島中洲の経学と『私録』」 陽明学研究室主催三島中洲シンポジウム 於:二松学舎大学 2017.10.21
79. 徐興慶「『中期水戸学』形成の試論」 SRF 第 5 回テーブルスピーチ 於:二松学舎大学 2017.7.11
80. 朴暎美「対馬における漢学との関わり」 東アジア日本研究者協議会第 2 回国際学術大会 於:南開大学 2017.10.29
81. 朴暎美「近代期日本の女子漢文教育と教科書」 第 8 届漢字與漢字教育國際研討會大會 於:草津 2018. 1.17 *16
82. 朴暎美「近代期東アジアの志士」 ウリ漢文学会、国際学術大会 於:成均館大学校 2018.1.27 *16
83. 王宝平「中国の高等教育機関における日本語教育・日本研究の現状と展望」 SRF シンポジウム「文学部の現在」 於:二松学舎大学 2017.7.8 *25
84. 合山林太郎「近世日本における袁宏道受容史の再検討:詩を中心に(袁宏道対江戸時代日本文人影响的再考察:以詩為中心)」 第二屆南京大學域外漢籍研究國際學術研討會 於:南京大学域外漢籍研究所 2017.7.1
85. 合山林太郎「野口寧齋と在清日本人のネットワーク:文廷式との交流・蔵書形成」 第 10 回和漢比較文学会海外特別例会・和漢比較文学会 於:西北大学外国語学院 2017.8.31

【平成 30(2018)年度】

86. 町泉寿郎「明治期における日中医籍交流」 二松学舎大学 SRF・日本内経医学会共催シンポジウム 二松学舎大学 2018.4.30 *31
87. 町泉寿郎「幕末考証学者の業績とその中国における受容」 二松学舎大学 SRF・台湾中央研究院共催ワークショップ「東アジアにおける漢文文化の伝播と流通」 於:二松学舎大学 2018.7.21 *31
88. 町泉寿郎「記念展示解説「近代岡山の漢学」」 二松学舎大学 SRF・山田方谷の軌跡(～奇跡～)実行委員会共催第 2 回漢学者記念館会議 於:二松学舎大学 2018.8.4 *32
89. 町泉寿郎「漢詩と政治批評」 二松学舎大学 SRF・香港城市大学共催国際ワークショップ「日本漢文学の射程:その方法、達成と可能性」 於:香港城市大学 2018.9.14 *31
90. 町泉寿郎「レオン・ド・ロニー旧蔵の中国書から見る東西の書籍文化交流」 リール大学主催・二松学舎大学 SRF 共催明治維新 150 周年記念国際シンポジウム「レオン・ド・ロニーの時代と日欧間の知の交流ー漢籍、軍制・法制の制度知を中心に」 於:リール大学 2018.10.10 *32
91. 町泉寿郎「明治漢方医家と清末文人の筆談」 二松学舎大学 SRF・浙江大学共催国際シンポジウム「近世東アジア地域における医師の国際移動や学術交流ー医学関係の筆談記録を中心にー」 於:二松学舎大学 2018.12.7 *31
92. 町泉寿郎「近代岡山の実業家と漢学」 二松学舎大学 SRF・公益財団法人渋沢栄一記念財団主催シンポジウム 於:倉敷市倉敷公民館 2019.1.13
93. 町泉寿郎「三島中洲と漢学塾二松学舎から見た東アジアの近代」 二松学舎大学 SRF・

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

- 台湾中央研究院共催ワークショップ「東亜文化意象的傳衍與流通」 於:中央研究院中國文哲研究所 2019.2.25 *31
94. 江藤茂博「日本の中等学校における儒学文化の影響—学則・校歌の表現より」 二松学舎大学 SRF・香港城市大学共催国際ワークショップ「日本漢文学の射程:その方法、達成と可能性」 於:香港城市大学 2018.9.14 *31
95. 江藤茂博「東アジアのメディアネットワーク」 二松学舎大学東アジア学術総合研究所・二松学舎大学 SRF・長崎歴史文化博物館主催梅屋庄吉生誕 150 周年・明治 150 年記念シンポジウム「梅屋庄吉の時代とメディア —東アジア・長崎・メディア—」 於:長崎歴史文化博物館 2018.12.23
96. 江藤茂博・平崎真右「漢学塾から中等教育へ」 二松学舎大学 SRF・台湾中央研究院共催ワークショップ「東亜文化意象的傳衍與流通」 於:中央研究院中國文哲研究所 2019.2.25 *31
97. 牧角悦子「経学と文学—詩経研究を例として」 第 10 回日中学者古代史論壇「学際化する中国学」 於:日本教育会館 2018.5.19
98. 牧角悦子「朱自清『詩言志辨』について」 日本聞一多学会第 22 回大会 於:二松学舎大学 2018.7.28
99. 牧角悦子「ヤマタノオロチと九尾の狐—日中比較神話研究序説」 二松学舎大学 SRF・香港城市大学共催国際ワークショップ「日本漢文学の射程:その方法、達成と可能性」 於:香港城市大学 2018.9.15 *31
100. 牧角悦子「近代ヨーロッパと中国学」 リール大学主催・二松学舎大学 SRF 共催明治維新 150 周年記念国際シンポジウム 於:リール大学 2018.10.10 *31
101. 牧角悦子「かなしいうた—「歌以言志」「歌以詠志」の意味するもの」 六朝学術学会 第 37 回例会 於:青山学院大学 2018.12.2
102. 牧角悦子「近代日本における漢学の変容—学問から学術へ—」 二松学舎大学 SRF・台湾中央研究院共催ワークショップ「東亜文化意象的傳衍與流通」 於:中央研究院中國文哲研究所 2019.2.25 *31
103. 山口直孝「漱石アンドロイドプロジェクトの目指すもの」「誰が漱石を甦らせる権利をもつのか?—偉人アンドロイド基本原則を考える」 於:二松学舎大学 2018.8 *29
104. 山口直孝「小説と声—漱石アンドロイドが読む『こころ』」 朝日教育会議「グローバル時代を生きるための「国語力」 於:二松学舎大学 2018.10 *29
105. 山口直孝「「文人」と「文学者」との間—夏目漱石における複数の漢文脈」 二松学舎大学 SRF・台湾中央研究院共催ワークショップ「東亜文化意象的傳衍與流通」 於:中央研究院中國文哲研究所 2019.2.25 *31
106. 田中正樹「レオン・ド・ロニー蔵書の中国思想文献について」 リール大学主催・二松学舎大学 SRF 共催明治維新 150 周年記念国際シンポジウム「レオン・ド・ロニーの時代と日欧間の知の交流—漢籍、軍制・法制の制度知を中心に」 於:リール大学 2018.10.10 *31
107. 市來津由彦「朱熹の跋文における「感情」の表象」 國學院大學中國學會第 61 回大会 於:國學院大學 2018.6.16
108. 市來津由彦「日本の中国古典学における漢文訓読法の位置—文言資料読解の現場から」 二松学舎大学 SRF・香港城市大学共催国際ワークショップ「日本漢文学の射程:その方法、達成と可能性」 於:香港城市大学 2018.9.14 *31
109. 伊藤晋太郎「高邁と関帝信仰」 東アジア学術総合研究所共同研究プロジェクト「中国古典学の再構築」主催公開シンポジウム「南宋の士大夫・洪邁の学術」 於:二松学舎大学 2019.3.12
110. 伊藤晋太郎「我的研究経歴和日本的三国文化研究」 沈伯俊先生新刊遺著发布会暨学術座談会「三国研究の主題与中外学術異同」 於:四川省社会科学院 2019.3.17

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

111. 王宝平「江戸時代における墨文化に関する中日交流—古梅園を中心に—」 二松学舎大学 SRF・台湾中央研究院共催ワークショップ「東アジアにおける漢文文化の伝播と流通」 於:二松学舎大学 2018.7.21 *31
112. 王宝平「中国の日本語教育」 中日和平友好条約締結 40 周年記念フォーラム 於:東京大学 2018.8.21
113. 王宝平「中国人の目からみた長崎—近代上海有力紙『申報』を中心に—」 二松学舎大学東アジア学術総合研究所・二松学舎大学 SRF・長崎歴史文化博物館主催梅屋庄吉生誕 150 周年・明治 150 年記念シンポジウム「梅屋庄吉の時代とメディア —東アジア・長崎・メディア—」 於:長崎歴史文化博物館 2018.12.23
114. ヴィグル・マティアス「Human Mobility and Medical Knowledge in Early Modern East Asia」 10th Annual Meeting of the Society for Cultural Interaction in East Asia
115. ヴィグル・マティアス「19 世紀の東洋学者の書簡—ロニー、クラブロートとジュリアンの手紙を中心に」 リール大学主催・二松学舎大学 SRF 共催明治維新 150 周年記念国際シンポジウム 於:リール大学 2018.10.10 *31
116. ヴィグル・マティアス「近世東アジアとヨーロッパにおける医師の移動の比較考察」 二松学舎大学 SRF・浙江大学共催国際シンポジウム「近世東アジア地域における医師の国際移動や学術交流—医学関係の筆談記録を中心に—」 於:二松学舎大学 2018.12.7 *31
117. 合山林太郎「近代日本における漢詩についての教養のあり方とその位置づけ」 東アジア日本研究者協議会第 3 回国際学術大会 於:国際日本文化研究センター 2018.10.27
118. キリ・パラモア「近世日本中後期の政治と政治思想—その関係における儒教思想の射程」 二松学舎大学 SRF・香港城市大学共催国際ワークショップ「日本漢文学の射程:その方法、達成と可能性」 於:香港城市大学 2018.9.15 *31
119. 朴暎美「高田眞治:漢学から支那学、そして中国学へ」 東アジア文化交渉学会 於:香港城市大学 2018.5.12-13
120. 朴暎美「戦前期に朝鮮で使用された漢文教科書と従来の研究」 東アジア日本研究者協議会第 3 回国際学術大会 於:国際日本文化研究センター 2018.10.26-28 *16
121. 劉岳兵「《日华明治維新史》:学术交流与政治宣传之间」 南開大学主催「明治維新与近代世界」国際学術研討会 於:南開大学 2018.7.28
122. 劉岳兵「「文明」として近代中国に輸出された「明治維新」」 国際日本文化研究センター主催「世界史のなかの明治/世界史にとっての明治」国際シンポジウム 於:国際日本文化研究センター 2018.12.14-16
- 【平成 31(2019)年度】**
123. 町泉寿郎「レオン・ド・ロニー旧蔵資料からみる 19 世紀日本」 二松学舎大学人文学会・SRF 共催講演会・シンポジウム「レオン・ド・ロニーと 19 世紀欧州東洋学」 於:二松学舎大学 2019.7.14 *35
124. 町泉寿郎「三島中洲と渋沢栄一の共鳴のかたち」 二松学舎大学 SRF・山田方谷の軌跡(～奇跡～)実行委員会共催第 3 回漢学者記念館会議 於:二松学舎大学 2019.8.13 *36
125. 町泉寿郎「三島中洲と渋沢栄一の論語解釈」 二松学舎大学 SRF 主催・渋沢栄一記念館協力・倉敷市後援シンポジウム「地域振興と漢学 —山田方谷・三島中洲・渋沢栄一—」 於:倉敷市倉敷公民館 2020.1.12 *35
126. 牧角悦子「近代ヨーロッパと中国学—レオン・ド・ロニーの漢籍コレクションを通して—」 二松学舎大学人文学会・SRF 共催講演会・シンポジウム「レオン・ド・ロニーと 19 世紀欧

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

- 州東洋学」於:二松学舎大学 2019.7.13 *35
- 127.田中正樹「山田方谷・三島中洲にみる近代の陽明学と孟子」東アジア学術総合研究所共同研究プロジェクト・二松学舎大学 SRF 共催シンポジウム「21 世紀における『孟子』像の新展開」於:二松学舎大学 2019.6.23 *35
- 128.田中正樹「レオン・ド・ロニー旧蔵漢籍の書入れについて」二松学舎大学人文学会・SRF 共催講演会・シンポジウム「レオン・ド・ロニーと 19 世紀欧州東洋学」於:二松学舎大学 2019.7.14 *35
- 129.市來津由彦「『孟子』の北宋を読み解く」東アジア学術総合研究所共同研究プロジェクト・二松学舎大学 SRF 共催シンポジウム「21 世紀における『孟子』像の新展開」於:二松学舎大学 2019.6.22 *35
- 130.山口直孝「湯地朝雄の文芸批評—芸術運動と国際連帯」本郷文化フォーラム・ワーカースクール(HOWS) 於:HOWS ホール 2019.07.17
- 131.山口直孝「大西巨人における漢文脈—『神聖喜劇』を中心に」中國文化大學「東亞人文社會科學研究的新地平線—人物、文化、思想、海洋與經濟的交匯」國際學術論壇 於:中国文化大学(台湾) 2019.10.4 *29
- 132.ヴィグル・マティアス「『房事養生鑑』に描かれている女性生殖器について」第 120 回日本医史学会学術大会 愛知県産業労働センター ウィンクあいち 2019.5.18
- 133.ヴィグル・マティアス「19 世紀のフランス東洋学者ネットワーク—レオン・ド・ロニーを中心に」二松学舎大学人文学会・SRF 共催講演会・シンポジウム「レオン・ド・ロニーと 19 世紀欧州東洋学」於:二松学舎大学 2019.7.13 *35
- 134.ヴィグル・マティアス「The Uses of Images in Early Modern Japanese Medical Books」ICHSEA 2019 (15th International Conference on the History of Science in East Asia) 於:国立全北大学校 2019.8.21
- 135.ヴィグル・マティアス「19 世紀欧州東洋学者からみた台湾・南島」東アジア日本研究者協議会第 4 回国際学術大会 於:福華文教会館・台湾大学 2019.11.2
- 136.ヴィグル・マティアス「Le rôle des illustrations dans la construction des savoirs médicaux à l'époque d'Edo (1603-1868)」Société des Études Euro-Asiatiques 2019.11.15
- 137.ヴィグル・マティアス「Acupuncture in American-Occupied Japan: a New Look at the Controversy over its Prohibition」The 5th Asia Future Conference 2020.1.11
- 138.合山林太郎「大沼鶴林・楠莊三郎による枕山の文学の継承と顕彰 —二松学舎大学寄託大沼家関係資料から—」二松学舎大学 SRF シンポジウム「枕山と荷風 —江戸の漢文学は近代に何をもたらしたのか—」於:二松学舎大学 2019.12.1 *35
- 139.朴暎美「日本の漢籍情報化と漢文コーパスの構築について」槿域漢文学会春季大会 2019.4.13
- 140.朴暎美「大韓帝国(1897-1910)における漢文テキストについて」漢文教科書科学研究会 於:二松学舎大学 2019.7.6 *28

【研究員】

【平成 27(2015)年度】

- 141.徳重公美「徂徠学における道德の再検討」SRF 第 1 回研究報告会 於:二松学舎大学 2016.1.21
- 142.徳重公美「荻生徂徠の思想における「聖人」の位置づけと丸山真男の「近代」」SRF 主催国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」於:倉敷市 2016.3.12 *5

【平成 28(2016)年度】

- 143.山口智弘「「反近代」の中の「近代」—安井息軒の経世論と近代日本」東アジア日本

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

研究者協議会第1回国際学術大会 於:仁川(韓国) 2016.12.1 *16

【平成 29(2017)年度】

144.商兆琦「田中正造の思想世界:神、天、聖、無、天国」SRF 次世代研究発表会 於:二松学舎大学 2017.7.8

【平成 30(2018)年度】

145.武田祐樹「川田甕江の文稿三種と玉島図書館甕江文庫所蔵の草稿について」第 135 回三島中洲研究会 於:二松学舎大学 2018.7.14 *20

146.武田祐樹「近世東アジア外交と漢文—林羅山の外交文書を中心に」二松学舎大学 SRF・香港城市大学共催国際ワークショップ「日本漢文学の射程:その方法、達成と可能性」於:香港城市大学 2018.9.14 *31

147.武田祐樹「一七世紀前半の徳川幕府外交政策と林羅山の外交文書との関係について」第 80 回琥珀会 於:国際基督教大学 2018.9.29

148.武田祐樹「林羅山の五山文学理解 とその批判」国立慶尚大学校開校 70 周年国際学術会議「東アジア儒教文化の省察と展望」於:国立慶尚大学校 2018.10.19

149.武田祐樹「玉島図書館甕江文庫所蔵資料から見る川田甕江」山田方谷の軌跡(～奇跡～)山田方谷と関連人物講演会 於:倉敷市立美術館 2019.1.12 *20

〔研究支援者〕

【平成 27(2015)年度】

150.川邊雄大「明治期の琉球における真宗法難事件について」東アジア文化交渉学会「東アジア文化交渉学会第 7 回国際シンポジウム」於:神奈川県開成町 2015.5.10 *4

151.川邊雄大「科研費「北九州の真宗を例とした仏教近代化に関する基礎的研究」終了報告」淡窓研究会 於:謙堂文庫 2015.6.6 *4

152.川邊雄大「書評:藤田拓之『居留民の上海』について」日本上海市研究会例会 於:日本大学通信教育部 2015.6.13

153.川邊雄大「幕末明治期における 真宗僧と咸宜園」僧侶・教師研修会 於:沖縄県宜野湾市・東本願寺沖縄別院 2015.6.15 *4

154.川邊雄大「明治期琉球における真宗法難事件をめぐって—東本願寺と内務省の対応を中心に—」仏教史学会第 66 回学術大会 於:京都府・花園大学拈花館 2015.11.22 *4

155.川邊雄大「白岩龍平とその人脈」三島中洲研究会 於:倉敷市倉敷公民館 2016.1.24 *4

156.川邊雄大「真宗僧による漢学受容と日中文化交流」大東文化大学人文科学研究所平成 27 年度座談会 於:東京・大東文化会館 2016.1.30 *4

157.川邊雄大「維新変革と日本思想への影響」国士舘大学政治経済学部経済研究所研究会 於:国士舘大学 2016.2.16

158.川邊雄大「白岩龍平とその周辺」SRF 国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」於:倉敷市 2016.3.13 *5

159.清水信子「漢蘭折衷医学の人々とその蔵書」第 116 回日本医史学会学術大会 於:綿業会館 2015.4.15

160.清水信子「備前備中、讃岐における近世医家所蔵資料について」国文研主導共同研究「アジアの中の日本古典籍—医学・理学・農学書を中心として—」第 2 回研究会 於:国文学研究資料館 2015.6.27

161.清水信子「江戸後期の備中・備前の医家と漢学」SRF 主催国際シンポジウム「近代東

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

アジアの漢学と教育」 於:倉敷市 2016.3.13 *5

【平成 28(2016)年度】

- 162.川邊雄大「大谷光瑞の対外政策と研究者たち —中尾万三・岡西為人を例として—」 東アジア文化交渉学会 東アジア文化交渉学会第 8 回国際シンポジウム 於:関西大学 2016.5.8
- 163.川邊雄大「咸宜園研究の現状と課題について」 淡窓研究会 於:二松学舎大学 2016.6.4
- 164.川邊雄大「大谷光瑞の思想と対外観の形成について」 近代仏教史研究会 於:新潟大学東京事務所 2016.6.5
- 165.川邊雄大「国士舘大学体育学部における中国語教育の現状と課題」 中国語文学会第 153 回定例学術研究発表会 於:東京語文学院日本語センター 2016.6.19
- 166.川邊雄大「真宗僧と咸宜園」 国士舘大学政治経済学部経済研究所研究会 於:国士舘大学 2017.3.9
- 167.清水信子「海保漁村の学問—幕末日本の考証学」 SRF 主催・上海師範大学共催シンポジウム 於:上海師範大学 2016.12.25 *11
- 168.清水信子「江戸後期から明治期における考証学—海保漁村を中心として」 国際シンポジウム「東アジアの近代化と漢学」 於:パリ第7大学 2017.2.11 *18
- 169.清水信子「近世における地方医家の学問修業」「漢蘭折衷医学に関する総合的研究」シンポジウム 於:二松学舎大学 2017.3.10

【平成 29(2017)年度】

- 170.川邊雄大「中国ビジネスの視点から見た日清貿易研究所」 東アジア文化交渉学会第 9 回年次大会 於:北京外国語大学 2017.5.14
- 171.川邊雄大「19 世紀の真宗僧と漢学—東本願寺の辺境・海外布教を例として」 東アジア日本研究者協議会第 2 回国際学術大会 於:南開大学 2017.10.29 *4
- 172.川邊雄大「戦前期に日本国内(内地)・台湾・朝鮮で使用された漢文教科書について」 SRF・檀国大学校国際学術交流会 於二松学舎大学 2018.1.15 *16
- 173.川邊雄大「漢学者加藤虎之亮の事蹟と旧蔵資料—宮内省関係文書を中心に—」 三島中洲研究会 於:本学 2018.3.19 *8
- 174.清水信子「赤木家の人々とその蔵書」 第 118 回日本医史学会学術大会 於:京都大学 2017.6.10

【平成 30(2018)年度】

- 175.川邊雄大「加藤虎之亮について—進講・対外認識を中心に—」 東アジア文化交渉学会第 10 回年次大会 於:香港城市大学 2018.5.13 *8
- 176.川邊雄大「宮内省御用掛としての加藤虎之亮」 淡窓研究会 於:二松学舎大学九段キャンパス 2018.6.2 *8
- 177.川邊雄大「幕末維新时期における真宗僧の海外情報受容について—松本白華・北方心泉を例として—」 二松学舎大学 SRF・台湾中央研究院共催ワークショップ「東アジアにおける漢文文化の伝播と流通」 於:二松学舎大学 2018.7.21 *31
- 178.川邊雄大「戦前期台湾の漢文教育および漢文教科書について」 漢文教科書科学研究会 於:二松学舎大学九段キャンパス 2018.9.11 *28
- 179.川邊雄大「戦前期台湾の漢文教科書について」 二松学舎大学 SRF・香港城市大学共催国際ワークショップ「日本漢文学の射程:その方法、達成と可能性」 於:香港城市大学 2018.9.14 *31

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

- 180.川邊雄大「近代における真宗僧と漢学—伊藤賢道を中心に—」三島中洲研究会 於：
二松学舎大学九段キャンパス 2018.9.29 *4
- 181.川邊雄大「戦前期台湾公学校の漢文教科書について」2018 年韓国ソナビ文化研究院
・慶尚大学南冥学研究所共同国際学術大会 於：韓国ソナビ文化研究院 2018.10.19
*28
- 182.川邊雄大「戦前期台湾における日本人教師の漢学的素養—伊藤賢道を例として—」東
アジア日本研究者協議会第3回国際学術大会 於：京都リサーチパーク 2018.10.29 *4
- 183.川邊雄大「漢文教科書および漢詩集に採録された咸宜園関係者の漢詩文に関する研
究」咸宜園教育研究センター奨励事業中間報告 大分・淡窓公民館 2018.12.2 *27
- 184.川邊雄大「明治期琉球における真宗法難事件—小栗憲—を例として—」国際仏教研究
プロジェクト東アジア班研究会 於：大谷大学真宗総合研究所 2018.12.15 *4
- 185.川邊雄大「漢文教科書および漢詩集に採録された咸宜園関係者の漢詩文に関する研
究」咸宜園教育研究センター顕彰事業研究報告会 於：日田市民文化会館パトリア日
田 2019.2.24 *27
- 186.清水信子「難波抱節旧蔵『医事古言』について」第 119 回日本医史学会学術大会 於：
鹿児島県医師会館 2018.6.2
- 187.清水信子「レオン・ド・ロニー旧蔵の中国書の特色について—日本人学者との相違」リ
ール大学主催・二松学舎大学 SRF 共催明治維新 150 周年記念国際シンポジウム「レオ
ン・ド・ロニーの時代と日欧間の知の交流—漢籍、軍制・法制の制度知を中心に」於：リ
ール大学 2018.10.10 *31

【平成 31(2019)年度】

- 188.清水信子,町泉寿郎「佐久間洋行旧蔵書について」第 120 回日本医史学会学術大会
於：愛知県産業労働センター ウィンクあいち 2020.5.18 *8
- 189.清水信子「レオン・ド・ロニー旧蔵漢籍の特徴について」二松学舎大学人文学会・SRF
共催講演会・シンポジウム「レオン・ド・ロニーと 19 世紀欧州東洋学」於：二松学舎大学
2019.7.14 *35

〔研究助手〕

【平成 27(2015)年度】

- 190.加畑聡子「田村(津田)玄仙による学校設立の試み」『日本医史学雑誌』第 60 巻第 4 号
日本医史学会
- 191.加畑聡子「水戸藩医・原南陽の医学教育」第 6 回水戸徳川家旧蔵史料調査報告会
2015.8.1
- 192.加畑聡子「近世日本における医学公教育の形成—経穴学教育を中心に—」第 43 回日
本伝統鍼灸学会学術大会課題研究発表 於：タワーホール船堀 2015.10.24
- 193.加畑聡子「小坂元祐の経穴書」中日中医経典研究国際学術研究会 於：南京中医薬
大学 2016.3.21
- 194.武田祐樹「江戸初期(17 世紀前半)における朱子学および儒者の意義 —林羅山を中心
に—」SRF 第 1 回研究報告会 於：本学 2016.1.21
- 195.楊爽「近代における漢文小説の「還流」—依田学海『譚海』と『東海遺聞』の関係を中心
に—」日本聞一多学会第 19 回研究大会 於：東洋大学 2015.7 *3
- 196.楊爽「依田学海と中国古典『聊齋志異』—「小野篁」と「蓮花公主」との比較研究を中心
に—」国際シンポジウム「近代東アジアの思想と文化—中国・日本の文化交流の視点
から」於：嘉興学院 2015.11 *3

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

【平成 28(2016)年度】

- 197.阿部和正「内面化する著作—『三四郎』における学生たちの言論—」日本近代文学会
2016 年度秋季大会 於:福岡大学 2016.10 *14
- 198.阿部和正「漢学塾のなかの漱石—講義録・証言からたどる「教養」形成—」SRF 主催国
際シンポジウム「漢文脈の漱石」於:二松学舎大学 2017.3.12 *14
- 199.加畑聡子「山崎宗運の「骨度折量尺」」第 118 回日本医史学会総会・学術大会 於:広
島県医師会会館 2016.5.21
- 200.加畑聡子「講義 江戸時代の経穴学教材—銅人形を題材として—」北里大学東洋医学
総合研究所主催「第 11 回鍼灸学校教員のための古典講座」於:北里大学白金キャン
パス 2016.8.6-7
- 201.加畑聡子「山崎宗運の『天聖銅人腧穴鍼灸図経彙攷』に見える加筆について」世界鍼
灸学会連合会 2016 世界大会(WFAS Tokyo/Tsukuba 2016) 於:つくば国際会議場
2016.11.5-6
- 202.加畑聡子「近世後期の水戸藩における医学公教育の形成—本間家の医学を基軸とし
て」東アジア日本研究者協議会第 1 回国際学術大会 於:韓国・仁川 2016.12.1
- 203.加畑聡子「講義 科学史 対象:中国人留学生」日本・アジア青少年サイエンス交流計
画「さくらサイエンスプラン」於:二松学舎大学 2016.12.7
- 204.加畑聡子「江戸中後期の医学公教育における漢蘭折衷」「漢蘭折衷医学に関する総合
的研究」シンポジウム 於:二松学舎大学 2017.3.10

【平成 29(2017)年度】

- 205.阿部和正「内向化する「文学者」—『野分』における演説と述作の有り様」全国大学国語
国文学会第 115 回研究発表大会 於:早稲田大学 2017.6.4 *23
- 206.加畑聡子「山崎宗運撰「大椎攷」についての比較検討」第 68 回日本東洋医学会 於:
名古屋国際会議場 2017.6.3
- 207.加畑聡子「小坂元祐撰『十四経絡發揮広要』について」第 118 回日本医史学会 於:京
都大学芝蘭会館 2017.6.11
- 208.加畑聡子「19 世紀日本の経穴学にみる漢蘭折衷」SRF 次世代研究発表会 於:二松学
舎大学 2017.7.8
- 209.加畑聡子「江戸時代の「経絡人形」についての一考察—北里大学東洋医学総合研究所
所蔵「経絡人形」を中心に—」第 45 回日本伝統鍼灸学会 於:石川県立音楽堂 ※日
本伝統鍼灸学会発表奨励賞受賞 2017.10.25
- 210.加畑聡子「曲亭馬琴の日記にみる近世後期江戸における医学派の諸相」第 12 回台湾
大学日本語文創新国際学術研究会 於:台湾大学 2017.12.9
- 211.加畑聡子「山崎宗運「骨度折量法尺式」と梯謙「脊尺」」第 5 回鍼灸医学史研究発表会
於:北里大学白金キャンパス 2018.1.7
- 212.武田祐樹「林羅山と清原宣賢の校勘学 —『三略直解』をめぐる—」SRF 次世代研究発
表会 於:二松学舎大学 2017.7.8
- 213.平崎真右「近代「日本」の「表記」をめぐる:「漢字」を超克する志向と文脈」SRF 次世
代研究発表会 於:二松学舎大学 2017.7.8
- 214.平崎真右「教学研究班による訪問調査の事例報告:成田高等学校を中心に」SRF・早
稲田大学中国古籍文化研究所共催「漢学者記念館会議」於:二松学舎大学
2017.7.29 *21
- 215.平崎真右「現代中国にみる「食」行動とその意識:「EC」環境の浸透と「CSA」を視野に」
岡山商科大学・二松学舎大学共同プロジェクトフードビジネス研究会主催「流通とコミュ

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

- ニケーションからみるフードビジネス」 於:二松学舎大学 2018.3.24
- 216.楊爽「『譚海』における「実録物」の受容と変容 —「孝義復讐」を事例として—」メディア表現研究会第3回例会研究発表会 於:二松学舎大学 2017.6 *15
- 217.楊爽「漢文白話体小説の書き手「秋風道人」とは誰か —依田学海の創作活動の一面—」SRF 次世代研究発表会 於:二松学舎大学 2017.7.8 *15
- 218.楊爽「依田学海『譚海』の海外への影響をめぐって」第12回台湾大学日本語文創新国際学術研討会 於:台湾大学 2017.12.9 *15

【平成 30(2018)年度】

- 219.加畑聡子「曲亭馬琴の医学観と医者との交流」第119回日本医史学会学術大会 於:鹿児島県医師会館 2018.6.2
- 220.加畑聡子「『天聖銅人腧穴鍼灸図経彙攷』に見られる身体部位名称についての検討」第69回日本東洋医学会学術総会 於:大阪国際会議場(グランキューブ大阪) 2018.6.10
- 221.加畑聡子「『天聖銅人腧穴鍼灸図経彙攷』にみる堀流経穴学の影響」第46回日本伝統鍼灸学会学術大会・総会 立命館いばらきフューチャープラザ 2018.11.24
- 222.平崎真右「「中国物」と虚構のゆくえ—訪中以前／以後の作風と、「馬の脚」を中心に—」メディア表現研究会 2018年度第1回月例会 於:二松学舎大学 2018.5.23
- 223.平崎真右「調査報告 漢学者関連相当施設の分布状況」二松学舎大学SRF・山田方谷の軌跡(～奇跡～)実行委員会共催、倉敷市後援第二回漢学者記念館会議 於:二松学舎大学 2018.8.4 *32
- 224.平崎真右「長岡で読む『米・百俵』—「少国民」の視点から—」日本近代文学会新潟支部例会 於:長岡市立中央図書館 2018.10.21
- 225.平崎真右「漢学塾から中等教育へ—東北学院、漢文教師関係資料を中心に—」二松学舎大学SRF・台湾中央研究院共催ワークショップ「東亜文化意象的傳衍與流通」 於:中央研究院中國文哲研究所 2019.2.25 *31

【平成 31(2019)年度】

- 226.加畑聡子「『経穴示蒙』に見える書き入れについて」第120回日本医史学会学術大会 於:愛知県産業労働センター ウィンクあいち 2019.5.18
- 227.加畑聡子「『天聖銅人腧穴鍼灸図経彙攷』に見える「鉤股図」について」第70回日本東洋医学会学術大会 於:新宿京王プラザホテル 2019.6.30

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

<既に実施しているもの>

【シンポジウム・学会等】

平成 27 年度(ホームページの URL : <https://www.nishogakusha-kanbun.net/srf/2015.html>)

1. 二松学舎大学 SRF 国際シンポジウム「漢字文化とコミュニケーション —筆談・現代アート・映像」 会場:浙江工商大学 2015.10.30 *5
2. 国際ワークショップ 会場:リール第三大学 2016.2.12 *7
3. 国際ワークショップ 会場:ライデン大学 2016.2.15 *7
4. 二松学舎大学 SRF 国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育 —備中倉敷から東アジアの近代教育を考える」 会場:倉敷市立美術館講堂 2016.3.12-13 *5
5. 二松学舎大学 SRF 国際シンポジウム「東アジアの教育制度のなりたちと漢学 —日本と台湾 近代教育制度の基盤となったもの」 会場:台湾大学・台湾師範大学 2016.3.29-30 *5

平成 28 年度(ホームページの URL : <https://www.nishogakusha-kanbun.net/srf/2016.html>)

6. 二松学舎大学 SRF・釜山大学校佔畢齋研究所共催シンポジウム「東アジア修身書翻訳と文明転換の論理」 会場:釜山大学校佔畢齋研究所 2016.7.14-15
7. 東アジア日本研究者協議会第 1 回国際学術大会 パネル「近代漢学における東アジア共同研究の可能性 —二松学舎大学の取り組み—」 会場:松島コンベンシア(韓国・仁川) 2016.12.1
8. 二松学舎大学 SRF 主催・上海師範大学中国古典学研究中心共催国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と文献研究」 会場:上海師範大学 2016.12.25 *11
9. 創立 140 周年記念事業 二松学舎大学 SRF・公益財団法人渋沢栄一記念財団主催シンポジウム「『論語』と『算盤』が会う東アジアの近代 渋沢栄一と三島中洲」 会場:二松学舎大学・倉敷市立美術館講堂 2017.1.21,31 *18
10. 二松学舎大学 SRF 国際シンポジウム「東アジアの近代化と漢学」 会場:パリ第 7 大学 2017.2.11 *18
11. 二松学舎大学創立 140 周年記念事業 二松学舎大学 SRF 主催シンポジウム「漢文脈の漱石」 会場:二松学舎大学 2017.3.11-12 *14

平成 29 年度(ホームページの URL : <https://www.nishogakusha-kanbun.net/srf/2017.html>)

12. 公益社団法人日本易学連合会主催・二松学舎大学 SRF 共催シンポジウム「易学の展開と近代 易を現代に生かす」 会場:二松学舎大学 2017.6.25 *24
13. 二松学舎大学 SRF・文学部共同国際シンポジウム「文学部の現在 東アジアの高等教育 文学・外国語学・古典学/儒学」 会場:二松学舎大学 2017.7.8 *25
14. 二松学舎大学 SRF 次世代研究発表会 会場:二松学舎大学 2017.7.8
15. 二松学舎大学 SRF・早稲田大学中国古籍文化研究所共催「漢学者記念館会議」 会場:二松学舎大学 2017.7.29 *25
16. 二松学舎大学 SRF・大連大学共催シンポジウム「日本近代の「漢学」教育・研究をめぐって—制度・研究・文芸」 会場:大連大学 2017.9.16 *22
17. 東アジア日本研究者協議会第 2 回国際学術大会 パネル「19 世紀日本における辺境と漢学」 会場:南開大学(中国・天津市)
18. 国際シンポジウム「『映像』『教科書』『漢字』 —メディアと文学・思想」 会場:北京第二外国語大学 2017.11.5
19. 国際シンポジウム「儒学の現代性と東アジア文化圏の再構築」 会場:魯東大学

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

2017.11.7 *24

20. シンポジウム「東アジア筆談研究」 会場: 浙江大学 2017.11.18-19 *24
21. 二松学舎大学 SRF・公益財団法人渋沢栄一記念財団主催シンポジウム「近代岡山における実業家と学術・文化・公益事業」 会場: 倉敷市新溪園 2018.1.29
22. 二松学舎大学 SRF レオン・ド・ロニー資料調査報告会 会場: ライデン大学 2018.2.24 *26
23. 二松学舎大学 SRF・ボルドー・モンテニュ大学共催国際ワークショップ 会場: モンテニュ大学 2018.2.28

平成 30 年度(ホームページの URL: <https://www.nishogakusha-kanbun.net/srf/2018.html>)

24. 二松学舎大学 SRF・日本内経医学会共催シンポジウム「内経学の系譜と漢学教育」 会場: 二松学舎大学 2018.4.30 *31
25. 二松学舎大学 SRF・台湾中央研究院共催ワークショップ「東アジアにおける漢文文化の伝播と流通」 会場: 二松学舎大学 2018.7.21 *31
26. 二松学舎大学 SRF・山田方谷の軌跡(～奇跡～)実行委員会共催第二回漢学者記念館会議 会場: 二松学舎大学 2018.8.4 *32
27. 二松学舎大学 SRF・香港城市大学共催国際ワークショップ「日本漢文学の射程: その方法、達成と可能性」 会場: 香港城市大学 2018.9.14-16 *31
28. リール大学主催・二松学舎大学 SRF 共催明治維新 150 周年記念国際シンポジウム「レオン・ド・ロニーの時代と日欧間の知の交流—漢籍、軍制・法制の制度知を中心に— 会場: リール大学 2018.10.10.-12 *31
29. 東アジア日本研究者協議会第 3 回国際学術大会 パネル「戦前期に日本国内・台湾・朝鮮で使用された漢文教科書」 会場: 国際日本文化研究センター、京都リサーチパーク 2018.10.26-28
30. 二松学舎大学 SRF・浙江大学共催国際シンポジウム「近世東アジア地域における医師の国際移動や学術交流—医学関係の筆談記録を中心に— 会場: 二松学舎大学 2018.12.7 *31
31. 二松学舎大学東アジア学術総合研究所・二松学舎大学 SRF・長崎歴史文化博物館主催梅屋庄吉生誕 150 周年・明治 150 年記念シンポジウム「梅屋庄吉の時代とメディア —東アジア・長崎・メディア— 会場: 長崎歴史文化博物館 1 階ホール 2018.12.23
32. 二松学舎大学 SRF・公益財団法人渋沢栄一記念財団主催シンポジウム「備中の学問と実業家の営みを考える」 会場: 倉敷市倉敷公民館 2019.1.13
33. 二松学舎大学 SRF・台湾中央研究院共催ワークショップ「東亜文化意象的傳衍與流通」 会場: 中央研究院中國文哲研究所 2019.2.25 *31

平成 31 年度(ホームページの URL: <https://www.nishogakusha-kanbun.net/srf/index.html>)

34. 東アジア学術総合研究所共同研究プロジェクト・二松学舎大学 SRF 共催シンポジウム「21 世紀における『孟子』像の新展開」 会場: 二松学舎大学 2019.6.22-23 *35
35. 二松学舎大学人文学会・SRF 共催講演会・シンポジウム「レオン・ド・ロニーと 19 世紀欧州東洋学」 会場: 二松学舎大学 2019.7.13-14 *35
36. 二松学舎大学 SRF・山田方谷の軌跡(～奇跡～)実行委員会共催第三回漢学者記念館会議 会場: 二松学舎大学 2019.8.3 *36
37. 東アジア日本研究者協議会第 4 回国際学術大会 パネル「グローバルスタディーズの潮流における漢学研究の意義 —近世近代の台湾を例として— 会場: 福華文教教会館・台湾大学 2019.11.1-3
38. 二松学舎大学 SRF シンポジウム「枕山と荷風 —江戸の漢文学は近代に何をもたらした

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

<p><u>のかー」会場:二松学舎大学 2019.12.1 *35</u></p> <p>39. <u>二松学舎大学 SRF 主催・渋沢栄一記念館協力・倉敷市後援シンポジウム「地域振興と漢学 —山田方谷・三島中洲・渋沢栄一—」 2020.1.12 *35</u></p> <p><これから実施する予定のもの> なし</p>

14 その他の研究成果等

<p>1. <u>セミナー *6</u></p> <p><u>SRF・浙江工商大学共催日本漢学上級セミナー 平成 28 年度～平成 31 年度</u> <u>期間:平成 28 年 7 月 14 日～7 月 21 日 会場:浙江工商大学</u> <u>期間:平成 29 年 8 月 21 日～8 月 30 日 会場:浙江工商大学</u> <u>期間:平成 30 年 8 月 25 日～9 月 1 日 会場:浙江紹興文理学院</u> <u>期間:平成 31 年 8 月 19 日～8 月 25 日 会場:中原工学院</u></p> <p>2. <u>公開講座 *6</u></p> <p><u>SRF 公開講座 会場:二松学舎大学</u> <u>平成 28 年度 「幕末・明治の漢詩」全 5 回・「幕末・明治の漢文」全 5 回</u> <u>平成 29 年度 「幕末・明治の漢詩」全 8 回・「幕末・明治の漢文」全 8 回</u> <u>平成 30 年度 「近代の漢詩・漢文」全 6 回</u> <u>平成 31 年度 「近代の漢詩・漢文」全 6 回</u></p> <p>3. <u>学術交流会 *40</u></p> <p><u>SRF・成均館大学校学術交流会 2017.9.21 会場:二松学舎大学</u> <u>SRF・鄭州大学学術交流会 2017.9.22 会場:二松学舎大学</u> <u>SRF・檀国大学校学術交流会 2018.1.15 会場:二松学舎大学</u></p> <p>4. <u>研究会</u></p> <p><u>三島中洲研究会・山田方谷研究会 *1</u> <u>平成 27 年度 6 回</u> <u>平成 28 年度 4 回</u> <u>平成 29 年度 7 回</u> <u>平成 30 年度 4 回</u> <u>平成 31 年度 3 回</u></p> <p><u>漢文教科書研究会 *28</u> <u>平成 28 年度 2 回</u> <u>平成 29 年度 2 回</u> <u>平成 30 年度 2 回</u> <u>平成 31 年度 2 回</u></p>

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

医療文化史研究会

平成 27 年度 2 回

大河内文書研究会 *30

平成 30 年度 18 回

平成 31 年度 14 回

5. 研究報告会

第 1 回 日 時:平成 28 年 1 月 21 日 18 時～20 時

報告者:徳重公美(SRF 研究員)

「徂徠学における「道德」の再検討(倫理思想史における位置づけの再検討)」

報告者:武田祐樹(SRF 研究助手)

「江戸初期(17 世紀前半)における朱子学および儒者の意義 —林羅山を中心に—」

第 2 回 日 時:平成 28 年 3 月 22 日 15 時 30 分～17 時

報告者:江藤茂博(SRF 教学研究班・文学部教授) *2

「近代日本の教育・文化と漢学塾」

報告者:牧角悦子(SRF 学術研究班・文学部教授)・町泉寿郎(SRF 学術研究班・文学部教授) *7

「フランス リール第三大学 オランダ ライデン大学資料調査・ワークショップ」

第 3 回 日 時:平成 28 年 4 月 28 日 15 時～18 時

報告者:稲田篤信(SRF 学術研究班・文学部特別招聘教授) *10

「唐音・訓読・国字解 —平賀中南の読書論—」

報告者:加藤国安(SRF 教学研究班・東アジア学術総合研究所特命教授)

「『子規全集』未収録の子規自筆漢詩抜萃写本について」

第 4 回 日 時:平成 28 年 6 月 30 日 16 時 30 分～19 時 45 分

報告者:江藤茂博(SRF 教学研究班・文学部教授)

「近代文化の基盤としての身体性と物語—序として」

報告者:ヴィグル・マティアス(SRF 支援事業連携者・浙江大学講師)

「幕末期の医学の身体表現—漢語と蘭語」

報告者:張佩茹(文学部専任講師)

「コミュニケーションの基盤をなす言語と漢字の身体性」

報告者:松本健太郎(SRF 支援事業連携者・文学部准教授)

「メディアが表象する「私」のイメージの変容と言語 —写真・ゲーム・インターネット」

6. テーブルスピーチ

第 1 回 平成 27 年 12 月 17 日 18 時 30 分～20 時

「日本漢文学プロジェクトの現状—見えてきた課題と今後の展望—」

合山林太郎(SRF 事業推進担当者・大阪大学大学院准教授)

第 2 回 平成 28 年 3 月 22 日 17 時～18 時 30 分

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

- 「1880 年代における第一高等中学校・帝国大学の衛生活動」
谷本宗生(大東文化大学 東洋研究所特任准教授)
- 第 3 回 平成 28 年 5 月 26 日 18 時 25 分～20 時 10 分
「亡国詩人の「明暗」」
野網摩利子(国文学研究資料館 助教)
- 第 4 回 平成 29 年 1 月 19 日 15 時～17 時
「歴史としての文学 —佐藤春夫の小説『李鴻章』を通して」
張天恩(早稲田大学大学院)
「日本出土の典籍木簡について」
葛継勇(国際日本文化研究センター外国人研究員)
- 第 5 回 平成 29 年 7 月 11 日 15 時～16 時 30 分
「中期水戸学」形成の試論
徐興慶(台湾大学教授)
- 第 6 回 平成 29 年 11 月 30 日 16 時 20 分～17 時 30 分
「村の漢学塾・長善館の史料整理」
田中友香理(筑波大学助教)
- 第 7 回 平成 30 年 5 月 17 日 15 時～17 時
「洋学教育と漢学:東京開成学校および初期東京大学における漢学について」 水野博太(東京大学大学院)
- 第 8 回 平成 30 年 7 月 12 日 15 時～17 時
「今関天彭の『東京先儒掃苔録』について」
徳田武(明治大学名誉教授)
- 第 9 回 平成 31 年 7 月 19 日 15 時～17 時
「張斯桂『使東採風集』に見る明治日本」
劉雨珍(南開大学教授)
- 第 10 回 平成 31 年 11 月 28 日 15 時 15 分～16 時 45 分
「朝鮮通信使『海行総載』について」
徐東日(延辺大学朝漢文学学院教授)

7. 資料展示 *8

企画展「芳野金陵と幕末日本の儒学」

平成 27 年 10 月 10 日～12 月 25 日

企画展「三島中洲と近代 其四 —小特集 戦争と漢学」

平成 28 年 5 月 23 日～6 月 25 日

企画展「三島中洲と近代 其五 —二松学舎の漢学教育」

平成 29 年 12 月 4 日～12 月 22 日

企画展「新収資料展 近代漢学の諸相」

平成 30 年 3 月 1 日～3 月 22 日

企画展「三島中洲と近代 其六 —近代日本と岡山の漢学者たち」

平成 30 年 7 月 12 日～8 月 10 日

企画展「明治の精神に学ぶ —明治 150 年—」

平成 30 年 12 月 1 日～平成 31 年 1 月 10 日

企画展「レオン・ド・ロニーと 19 世紀欧州の東洋学」

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

令和元年 6 月 27 日～8 月 19 日
企画展「大沼枕山・鶴林と永井荷風『下谷叢話』」
令和元年 9 月 26 日～11 月 16 日
企画展「作家・大西巨人—「全力的な精進」の軌跡」
令和 2 年 2 月 4 日～3 月 14 日

8. データベース *9

日本漢学画像データベース <https://www.nishogakusha-kanbun.net/database2/>
コンテンツ

- ・日本漢文関連資料
- ・芳野金陵旧蔵資料
- ・加藤復斎旧蔵資料
- ・阪谷朗廬旧蔵資料
- ・三島文庫・三島中洲関係資料
- ・レオン・ド・ロニー
- ・雑誌類

予稿集・要旨集

9. 「国際シンポジウム 近代東アジアの漢学と教育—備中倉敷から東アジアの近代教育を考える—」予稿集 二松学舎大学 SRF 2016.3.12 *5
10. 「文学部の現在 —東アジアの高等教育 文学・外国語学・古典学/儒学」予稿・資料集 二松学舎大学 SRF・文学部 2017.7.8 *25
11. 「漢学者記念館会議」予稿集 二松学舎大学 SRF 2017.7.29 *25
12. 「日本内経医学会・二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」主催「内経学の系譜と漢学教育」講演・シンポジウム要旨集 2018.4.30 *31
13. 「第二回 漢学者記念館会議」予稿集 二松学舎大学 SRF 2018.8.4 *32
14. 「浙江大学・二松学舎大学 SRF 共催<国際シンポジウム>「近世東アジア地域における医師の国際移動や学術交流—医学関係の筆談記録を中心に—」予稿集 2018.12.8 *31
15. 「東アジア学術総合研究所共同研究プロジェクト・二松学舎大学 SRF 共催「21 世紀における『孟子』像の新展開」予稿集 2019.6.22 *35
16. 「二松学舎大学 SRF 主催「レオン・ド・ロニーと 19 世紀欧州東洋学」予稿集 2019.7.13 *35

ニュースレター

17. 『雙松通説』Vol.20 二松学舎大学 SRF 2015.8.31
18. 『雙松通説』Vol.21 二松学舎大学 SRF 2016.7.31
19. 『雙松通説』Vol.22 二松学舎大学 SRF 2017.4.25
20. 『雙松通説』Vol.23/24 二松学舎大学 SRF 2019.3.25
21. 『雙松通説』Vol.25 二松学舎大学 SRF 2019.10.10
22. 『雙松通説』Vol.26 二松学舎大学 SRF 2020.3.31

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

学位論文 *39

23. 武田祐樹(研究助手)「林羅山の学問形成とその特質—古典注釈書と編纂事業を中心に」2018.3 学位「博士(日本漢学)」
24. 楊爽(研究助手)「依田学海研究—漢文小説を中心に—」2018.3 学位「博士(文学)」
25. 加畑聡子(研究助手)「江戸時代医学公教育形成期における経穴学の展開—江戸医学館を中心として—」 2020.3 学位「博士(文学)」

書評**〔事業推進担当者〕**

26. 江藤茂博「塩村耕編『文学部の逆襲』」『人文論叢』第 95 輯 二松学舎大学人文学会 2015.10 203-205 頁
27. 牧角悦子「文学研究者への挑戦状——渡邊義浩著『古典中国における文学と儒教』」『三国志研究』第 10 号 三国志学会 2015.9 159-168 頁
28. 山口直孝「平浩一著『「文芸復興」の系譜学——志賀直哉から太宰治へ』」『日本近代文学』第 93 集 日本近代文学会 2015.11 256-259 頁
29. 山口直孝「安藤宏著『「私」をつくる 近代小説の試み』」『日本文学』65(12) 日本文学協会 2016.12 78-79 頁
30. 山口直孝「天皇制の「打ちこわし」を目指して／民衆と知識人とを架橋する試み／渥美博著『封殺されたもうひとつの近代 透谷と啄木の足跡を尋ねて』」『図書新聞』3289 図書新聞社 2017.2 4-4 頁
31. 山口直孝「〈新刊紹介〉山内祥史著『若き日の日野啓三 昭和二十年代の文業』」『昭和文学研究』(74) 昭和文学会 2017.3 234-234 頁
32. 山口直孝「〈新刊紹介〉森靖雄著『川端康成『掌の小説』論 「雪」「夏の靴」その他』」『昭和文学研究』(74) 昭和文学会 2017.3 234-234 頁
33. 山口直孝「〈新刊紹介〉勇気を与える文芸批評——『歴史の総合者として——大西巨人未刊行批評集成』」『思想運動』(1011) 2017.11 8-8 頁 *3
34. 山口直孝「探偵小説界両巨人の軌跡／『江戸川乱歩と横溝正史』中川右介著」『沖縄タイムス』ほか 2017.12 14-14 頁
35. 山口直孝「〈一冊〉横溝正史著 雪割草／77 年経た幻の新聞連載小説」『新潟日報』2018.3.25 28-28 頁
36. 山口直孝「〈新刊紹介〉山口直孝編『大西巨人——文学と革命』／大西巨人の「机上的」(ブッキッシュ)な世界に分け入る」『思想運動』(1021) 2018.5 7-7 頁 *23

〔研究員〕

37. 山口智弘「Kiri Paramore. Japanese Confucianism: A Cultural History.」『日本漢文学研究』第 12 号 二松学舎大学日本漢文教育研究推進室 2017.3 177-183 頁

〔研究支援者〕

38. 川邊雄大「白須淨眞編『大谷光瑞とスヴェン・ヘディン—内陸アジア探検と国際政治社会』」『書論』第 41 号 書論編集室 2015.8 251-253 頁 *4
39. 川邊雄大「『居留民の上海—共同租界行政をめぐる日英の協力と対立』について」『西洋史学』258 号 日本西洋史学会 2015.9 79-81 頁

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

小文

〔事業推進担当者〕

40. 町泉寿郎「研究の窓 論語と算盤」『講座 近代日本と漢学』第1巻「漢学という視座」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2019.12 196-200頁 *34
41. 山口直孝「子規・虚子俳句の眺め」『書教』第692号 全日本書道教育協会 2016.4 1-1頁 *14
42. 山口直孝「漱石俳句周游」『書教』第704号 全日本書道教育協会 2017.4 *23
43. 山口直孝「漱石アンドロイドという謎—「私」とは誰か」『国語教室』第106号 大修館書店 2017.11 8-13頁 *23
44. 山口直孝「個を超える正しさ—『神聖喜劇』の更新が意味するもの」『季刊メタポゾン』(11) 2017.12 21-25頁 *23
45. 山口直孝「たゆみない創作への情熱—『雪割草』が象徴するもの」『小説野性時代』16(3) 角川書店 2018.2 184-186頁
46. 山口直孝「大西巨人『歴史の総合者として』(幻戯書房)刊行記念トークイベント「歴史の総合者とは何か？」」『webでも考える人』新潮社 2018.7 *29
47. 山口直孝「〈展望〉「政治と文学」をめぐる探究の現場—『歴史の総合者として—大西巨人未刊行批評集成』を編纂して」『社会文学』(48) 日本社会文学会 2018.8 131-132頁 *29
48. 山口直孝「〈研究展望〉地方紙の総合的調査を—横溝正史『雪割草』発掘から感じたこと」『昭和文学研究』(78) 昭和文学会 2019.3 168-170頁
49. 山口直孝「大西巨人における読書と創作—『深淵』と『親和力』・『城』」『解纜』第13号 2019.5 99-102頁 *29
50. 山口直孝「湯地朝雄の今日的意義—現在を撃ち、あるべき未来を探る」『思想運動』(1045) 2019.10
51. 小方伴子「慶谷先生の「言語学」」『開篇』Vol.35 好文出版 32-33頁
52. 加藤国安「人類の未来と日本漢詩」『季報』92 二松学舎大学附属図書館 2015.7 2頁
53. 加藤国安「京極高朗(琴峰)公と漢詩」『第14回全国藩校サミット丸亀大会』冊子 2016.11 16-17頁
54. 加藤国安「絵も及ばない高潔の人、岡本黄石」『世田谷区立郷土資料館 資料館だより』No.66 2017.3 1-7頁
55. 加藤国安「子規研究の新しい視点—祖父と孫の観点から」『日本文学文化』第18号 東洋大学文学部 2019.2
56. 加藤国安「四国地方の漢学塾」『講座 近代日本と漢学』第2巻「漢学と漢学塾」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.1 192-200頁 *34
57. 伊藤晋太郎「『三国志演義』から中国人を読み解く画期的な総合事典」『漢文教室』第205号 大修館書店 2019.4 22頁
58. 伊藤晋太郎「慶応義塾」『講座 近代日本と漢学』第2巻「漢学と漢学塾」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.1 279-285頁 *34
59. ヴィグル・マティアス「国会図書館までのグルメ散歩道」『學 MANABI』第50号 二松学

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

舎大学 2018.8

60. 合山林太郎「中国・西安で日本漢文学研究のグローバル化について考える:第8回和漢比較文学会海外特別例会発表についての報告」『雙松通信』Vol.21 二松学舎大学日本漢文教育研究推進室 2016.7 11-13 頁
61. 黄美娥著・森岡ゆかり、合山林太郎翻訳「越境して伝播し、同文の思想のもと混淆し、一つの民族を想像する—台湾における頼山陽の受容史(一八九五～一九四五)—」『アジア遊学』229号 勉誠出版 2019.1 206-235 頁
62. 合山林太郎「適塾をめぐる詩と書(第8回) 但だ満身此れ雨露なるを覚ゆるも 絶て一点の塵砂を着する無し 花房義質」『適塾』51号 大阪大学適塾記念センター 2018.12 139-141 頁
63. 合山林太郎「シンポジウム「枕山と荷風—江戸の漢文学は近代に何をもたらしたのか—」開催報告」『雙松通信』Vol.26 二松学舎大学日本漢学研究センター 2020.3 29-32 頁 *35
64. 合山林太郎「謝靈運「東陽溪中贈答」と近世・近代日本の漢詩人」『アジア遊学』240号 勉誠出版 2019.12 218-222 頁
65. 合山林太郎「家犬 翁の返るを知り、迎え来りて 後におり又た先における 渡辺卯三郎」『適塾』52号 適塾記念会 2019.12 143-146 頁
66. 合山林太郎「幕末漢詩における政治性とは何か」松田浩・上原作和・佐谷眞木人・佐伯孝弘編『古典文学の常識を疑うⅡ—縦・横・斜めから書きかえる文学史』 勉誠出版 2019.9 232-235 頁
67. 王宝平「2016年中国大学教員“日本漢学”上級セミナー開催報告」『雙松通信』Vol.22 二松学舎大学日本漢文教育研究推進室 2017.4 22-24 頁

【研究員】

68. 商兆琦「国際シンポジウム「文学部の現在—東アジアの高等教育 文学・外国語学・古典学／儒学」に参加して」『雙松通説』Vol.23/24 二松学舎大学日本漢学研究センター 2019.3 22-23 頁 *25
69. 武田祐樹「学術研究班 研究活動報告 玉島図書館甕江文庫所蔵資料の調査を振り返って」『雙松通説』Vol.23/24 二松学舎大学日本漢学研究センター 2019.3 83-84 頁 *20

【研究支援者】

70. 川邊雄大「科研費「北九州の真宗を例とした仏教近代化に関する基礎的研究」について」黄運喜編『台湾仏教研究』第4巻第1期 2015.6 19 頁 *4
71. 川邊雄大「第6回東アジア文化交渉学会年次大会」に参加して」『雙松通説』No.20 二松学舎大学日本漢文教育研究推進室 2015.8 5-7 頁
72. 川邊雄大「新刊紹介 『浄土真宗と近代日本—東アジア・布教・漢学—』について」『台湾仏教研究』(闕正宗編)第5巻第1期 2016.5 8-10 頁 *4
73. 川邊雄大「科研費「北九州の真宗を例とした仏教近代化に関する基礎的研究」終了報告」『淡窓研究会会報』第8号 淡窓研究会 2016.6 3-5 頁 *4
74. 川邊雄大「咸宜園研究の現状と課題について」『淡窓研究会会報』第8号 淡窓研究会 2016.6 9-10 頁
75. 川邊雄大「第7回東アジア文化交渉学会年次大会」に参加して」『雙松通説』No.21 二松

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

- 学舎大学日本漢文教育研究推進室 2016.7 8-10 頁
76. 川邊雄大「本学教職員著書紹介」『二松学舎大学附属図書館 季報』第 98 号 二松学舎大学附属図書館 2016.12 7 頁
77. 川邊雄大「第 8 回東アジア文化交渉学会年次大会に参加して」『雙松通説』No.22 二松学舎大学日本漢文教育研究推進室 2017.4 17-19 頁
78. 清水信子「国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育—備中倉敷から東アジアの近代教育を考える—」に参加して」『雙松通説』No.22 二松学舎大学日本漢文教育研究推進室 2017.4 11-13 頁 *5
79. 川邊雄大「第 9 回東アジア文化交渉学会年次大会に参加して」『雙松通説』No.23/24 二松学舎大学日本漢学研究センター 2019.3 19-21 頁
80. 川邊雄大・町泉寿郎「第 10 回東アジア文化交渉学会年次大会に参加して」『雙松通説』No.23/24 二松学舎大学日本漢学研究センター 2019.3 70-72 頁
81. 川邊雄大「東アジア日本研究者協議会第 2 回国際学術大会に参加して」『雙松通説』No.23/24 二松学舎大学日本漢学研究センター 2019.3 73-76 頁
82. 川邊雄大「加藤虎之亮の事蹟」『周禮經注疏音義校勘總説』二松学舎大学私立大学戦略的基盤形成事業近代日本の「知」の形成と漢学 2019.3 *8
83. 清水信子「学術研究班 研究活動報告 加藤復斎旧蔵資料調査」『雙松通説』Vol.23/24 二松学舎大学日本漢学研究センター 2019.3 33-34 頁 *8
84. 川邊雄大「東アジア文化交渉学会第 11 回年次大会に参加して」『雙松通説』No.25 二松学舎大学日本漢学研究センター 2019.10 34-36 頁
85. 川邊雄大「東アジア研究班 研究活動報告 第 3 回東アジア日本研究者協議会国際学術大会に参加して」『雙松通説』No.25 二松学舎大学日本漢学研究センター 2019.10 48-50 頁
86. 川邊雄大「研究の窓 満洲医科大学について」『講座 近代日本と漢学』第 3 巻「漢学と医学」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.1 272-275 頁 *34
87. 川邊雄大「研究の窓 国士館の漢学」『講座 近代日本と漢学』第 4 巻「漢学と学芸」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.2 229-236 頁 *34

〔研究助手〕

88. 楊爽「国際シンポジウム「近代東アジアの思想と文化—中国・日本の文化交流の視点から」に参加して」『雙松通説』Vol.21 二松学舎大学日本漢文教育研究推進室 2016.7 16-18 頁
89. 阿部和正「近代文学研究班 研究報告」『雙松通説』Vol.22 二松学舎大学日本漢文教育研究推進室 2017.4 31-32 頁 *23
90. 平崎真右「教学研究班 アンケート調査:経過報告」『雙松通説』Vol.22 二松学舎大学日本漢文教育研究推進室 2017.4 27-30 頁 *13
91. 楊爽「SRF 学術研究班・研究報告」『雙松通説』Vol.22 二松学舎大学日本漢文教育研究推進室 2017.4 25-26 頁
92. 加畑聡子「口絵解説 北里大学東洋医学総合研究所所蔵「経穴人形」」『鍼灸 OSAKA』131 森ノ宮医療学園 2019.1
93. 阿部和正「SRF 主催シンポジウム「漢文脈の漱石」第 2 部印象記」『雙松通説』

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

- Vol.23/24 二松学舎大学日本漢学研究センター 2019.3 13-14 頁 *14
94. 阿部和正「近代文学研究班 研究活動報告」『雙松通説』Vol.23/24 二松学舎大学日本漢学研究センター 2019.3 40-41 頁 *15
95. 阿部和正「近代文学研究班 研究活動報告」『雙松通説』Vol.23/24 二松学舎大学日本漢学研究センター 2019.3 88-89 頁 *29
96. 加畑聡子「シンポジウム「内経学の系譜と漢学教育」参加報告」『雙松通説』Vol.23/24 二松学舎大学日本漢学研究センター 2019.3 66-67 頁 *31
97. 加畑聡子「東アジア研究班 研究活動報告」『雙松通説』Vol.23/24 二松学舎大学日本漢学研究センター 2019.3 90-91 頁
98. 平崎真右「「漢学者記念館会議」に参加して」『雙松通説』Vol.23/24 二松学舎大学日本漢学研究センター 2019.3 24-30 頁 *25
99. 平崎真右「教学研究班 研究活動報告」『雙松通説』Vol.23/24 二松学舎大学日本漢学研究センター 2019.3 35-39 頁 *13
100. 平崎真右「第二回「漢学者記念館会議」参加報告」『雙松通説』Vol.23/24 二松学舎大学日本漢学研究センター 2019.3 77-82 頁 *32
101. 平崎真右「教学研究班 研究活動報告」『雙松通説』Vol.23/24 二松学舎大学日本漢学研究センター 2019.3 85-87 頁 *21
102. 加畑聡子「第 25 回富士川游学術奨励賞受賞報告」『雙松通説』Vol.25 二松学舎大学日本漢学研究センター 2019.10 30-31 頁
103. 平崎真右「教学研究班 研究活動報告」『雙松通説』Vol.25 二松学舎大学日本漢学研究センター 2019.10 42-45 頁
104. 平崎真右「研究の窓 桜美林大学の漢学」『講座 近代日本と漢学』第 4 巻「漢学と学芸」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.2 237-245 頁 *34
105. 平崎真右「山本有と漢学」『講座 近代日本と漢学』第 6 巻「漢学と近代文学」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.3 209-216 頁 *34
106. 平崎真右「第三回「漢学者記念館会議」参加報告」『雙松通説』Vol.26 二松学舎大学日本漢学研究センター 2020.3 20-24 頁 *36
107. 伊豆原潤星「近代文学研究班 研究活動報告」『雙松通説』Vol.25 二松学舎大学日本漢学研究センター 2019.10 46-47 頁
108. 伊豆原潤星「研究の窓 谷崎潤一郎と漢学——オリエンタリズムの圏外」『講座 近代日本と漢学』第 6 巻「漢学と近代文学」二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」2020.3 139-146 頁 *34

講演・講義

〔事業推進担当者〕

109. 町泉寿郎「三島中洲について」市民公開講座 於：倉敷市 2015.10.11 *2
110. 町泉寿郎「山田方谷と三島中洲について」市民公開講座 於：倉敷市 2015.11.22 *2
111. 牧角悦子「『論語』と教育」柏市大学連携講座 2015.8
112. 牧角悦子「山田方谷と三島中洲」山田方谷の軌跡講演会 於：高梁国際ホテル 2016.1.23 *2
113. 牧角悦子「鎮西の儒侠亀井南冥の為人と学問」斯文会先儒祭講演会 於：湯島聖堂

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

2018.10.28

- 114.町泉寿郎「山田方谷と三島中洲」SRF・倉敷市・「山田方谷の軌跡」実行委員会共催講演会 於:倉敷市 2016.5.1 *2
- 115.町泉寿郎「共同体としての東アジア」海外著名学者招請講演会 於:慶尚大学校 2016.11.28 *8
- 116.田中正樹「三島中洲の経学」二松学舎大学資料展示室講演会 2016.6 *2
- 117.田中正樹「山田方谷の思想 —『孟子養氣章或問圖説』の「圖を中心に—」「山田方谷の軌跡」講演会 於:井原市民会館 2016.8.20 *2
- 118.田中正樹「三島中洲の学術」くらしき市民講座 於:ライフパーク倉敷 2016.12.3 *2
- 119.牧角悦子「幕末明治期の備中備前の名士たち —三島・野崎・大原—」備中倉敷学 於:倉敷市 2016.7.14 *2
- 120.山口直孝「英国留学時代の漱石と『夢十夜』」夏目漱石没後百年記念文化講演会 & 声のことばミニ劇場 於:神田外語学院アッセンブリー・ホール 2016.10.22 *14
- 121.山口直孝「地図がはぐくむ想像カー—横溝正史と軽井沢」於:二松学舎大学柏キャンパス 2016.11.11
- 122.山口直孝「写生の系譜 —子規・漱石・虚子」「書教」700号記念講演会 於:明治大学 2016.11.27 *14
- 123.山口直孝「超越的なものの峻拒—大西巨人におけるソレル『暴力論』の受容と初期批評の論理」 2017.2.26 *15
- 124.山口直孝「『硝子戸の中』の江戸と東京—夏目漱石の原風景を歩く」於:二松学舎大学 2018.3.7 *23
- 125.山口直孝「横溝正史の戦時下と『雪割草』」於:書泉グランデ 2018.3.30
- 126.稲田篤信「江戸期の西行伝承 —面—秋成と竹窓の場合—」第8回西行学会大会公開講演会 於:本学 2016.8.27
- 127.稲田篤信「庶民の分度 —上田秋成と『論語』—」平成28年度「論語の学校」於:二松学舎大学 2016.11.19
- 128.稲田篤信「平賀晋民の人と学問」SRF・三原市教育委員会共催講演会「平賀晋民の世界」於:三原市中央公民館 2017.3.18 *10
- 129.野間文史「平賀晋民と四書五経」SRF・三原市教育委員会共催講演会「平賀晋民の世界」於:三原市中央公民館 2017.3.18 *10
- 130.加藤国安「京極高朗(琴峰)公と漢詩」第14回全国藩校サミット丸亀大会 2016.11.27
- 131.町泉寿郎「岡山の実業家と漢学者」公益財団法人竜王会館主催講演会 於:野崎家別邸(倉敷市) 2017.11.9
- 132.町泉寿郎「山田方谷門下の原田一道と三島中洲」山田方谷の軌跡(～奇跡～)主催講演会 於:笠岡市中央公民館 2018.1.28
- 133.加藤国安「長野豊山について—鳴りわたる嘉声」第67回先儒祭墓前講話 於:大塚 2017.10.22
- 134.加藤国安「大原観山の新資料から見る幕末、そして子規へ—観山生誕200年記念」松山市立子規記念博物館 2018.8.11 *37
- 135.ヴィグル・マティアス「海外における日本医学史研究の現状」第13回鍼灸学校教員のための古典講座 於:北里大学 2018.8.19

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

〔研究支援者〕

136. 清水信子「二松學舎の漢学教育」 創立 140 周年記念特別展「三島中洲と近代 其五—
二松學舎の漢学教育」講演会 於: 二松学舎大学 2017.12.16 *8
137. 清水信子「漢学の近代—明治の精神に学ぶ」 二松学舎大学大学資料展示室講演会
「近代日本における二松學舎の特質」 於: 二松学舎大学 2018.12.1 *8

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

<「選定時」に付された留意事項>

なし

<「選定時」に付された留意事項への対応>

なし

<「中間評価時」に付された留意事項>

なし

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

なし

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他()	
平成27年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	38,970	21,709	17,261				
平成28年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	41,831	24,498	17,333				
平成29年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	41,485	24,130	17,355				
平成30年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	41,282	23,716	17,566				
平成31年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	40,871	23,257	17,614				
総額	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	0	0	0	0	0	0	0
	研究費	204,439	117,310	87,129	0	0	0	0
総計	204,439	117,310	87,129	0	0	0	0	

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

17 施設・装置・設備の整備状況（私学助成を受けたものはすべて記載してください。）
《施設》（私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。）（千円）

施設名称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
東アジア学術総合研究所 資料保管庫 備中漢学資料室 (倉敷市倉敷物語館内)	平成26年度	119m ²	3	20			
	平成30年度	145m ²					
	平成27年度	19m ²					

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積 0 m²

《装置・設備》（私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。）（千円）

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h			
				h			
				h			
				h			
(研究設備)				h			
				h			
				h			
				h			
(情報処理関係設備)				h			
DB構築作業用PC	27年度	VJZ13A1	1	2,496	351	175	私学助成
作業用PC	27年度	FMVA08020P	5	12,341	1,047	523	私学助成
DB構築作業用PC	27年度	PC-HZ750DAB	1	1,248	203	101	私学助成
デジタルフィルムスキャナ	27年度	SL1000	1	8,438	1,035	517	私学助成

18 研究費の支出状況（千円）

年度	平成 27 年度		
小科目	支出額	積算内訳	
		主な用途	金額
教育研究経費支出			
消耗品費	2,477	コピー用紙購入、資料保存資材購入	2,477
光熱水費			
通信運搬費	280	刊行物発送 他	280
印刷製本費	1,377	刊行物印刷製本、文献複写 他	1,377
旅費交通費	4,439	出張旅費、招聘旅費	4,439
報酬・委託料	10,763	書類整理、資料デジタル化 他	10,763
(その他)	1,634	謝金、会議費 他	1,634
計	20,970		20,970
アルバイト関係支出			
人件費支出	49	漢学塾リストデータ入力	49
(兼務職員)	22	シンポジウム動画編集	22
教育研究経費支出			
計	71		71
設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	5,566		5,566
図書	10,231		10,231
計	15,797		15,797
研究スタッフ関係支出			
リサーチ・アシスタント	718	資料整理、シンポジウム等運営 他	718
ポスト・ドクター	817	研究推進、研究助手の指導 他	817
研究支援推進経費	595	研究支援、シンポジウム等運営 他	595
計	2,130		2,130

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

年 度	平成 28 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	3,510	コピー用紙購入、書簡購入 他	3,510
光 熱 水 費			
通 信 運 搬 費	550	資料運搬、チラシ発送 他	550
印 刷 製 本 費	2,772	刊行物印刷製本、文献複写 他	2,772
旅 費 交 通 費	6,846	出張旅費、招聘旅費	6,846
報 酬 ・ 委 託 料	10,085	書類整理、資料デジタル化 他	10,085
(その他)	808	謝金、会議費 他	808
計	24,571		24,571
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	10	資料調査補助(撮影)	10
	15	資料整理	15
	50	シンポジウム運営補助	50
教育研究経費支出 計	75		75
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	275		275
図 書	11,095		11,095
計	11,370		11,370
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	1,796	資料整理、シンポジウム等運営 他	1,796
ポスト・ドクター	2,482	研究推進、研究助手の指導 他	2,482
研究支援推進経費	1,535	研究支援、シンポジウム等運営 他	1,535
計	5,813		5,813

年 度	平成 29 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	6,531	コピー用紙購入、書簡購入 他	6,531
光 熱 水 費			
通 信 運 搬 費	621	刊行物発送、チラシ発送 他	621
印 刷 製 本 費	3,373	刊行物印刷製本、文献複写 他	3,373
旅 費 交 通 費	7,646	出張旅費、招聘旅費	7,646
報 酬 ・ 委 託 料	4,700	書類整理、資料デジタル化 他	4,700
(その他)	1,201	謝金、会議費 他	1,201
計	24,072		24,072
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	67	購入資料の整理	67
	92	購入資料の整理	92
教育研究経費支出 計	159		159
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品			
図 書	11,591		11,591
計	11,591		11,591
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	1,811	資料整理、シンポジウム等運営 他	1,811
ポスト・ドクター	2,444	研究推進、研究助手の指導 他	2,444
研究支援推進経費	1,405	研究支援、シンポジウム等運営 他	1,405
計	5,660		5,660

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

年 度	平成 30 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	7,706	コピー用紙購入、雑誌購入 他	7,706
光 熱 水 費			
通 信 運 搬 費	318	刊行物発送、チラシ発送 他	318
印 刷 製 本 費	2,828	刊行物印刷製本、文献複写 他	2,828
旅 費 交 通 費	6,727	出張旅費、招聘旅費	6,727
報 酬 ・ 委 託 料	5,189	書類整理、資料デジタル化 他	5,189
(そ の 他)	842	謝金、会議費 他	842
計	23,610		23,610
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	22	国際シンポジウム等運営補助	22
教育研究経費支出	118	資料移設・整理	118
計	140		140
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品			
図 書	12,222		12,222
計	12,222		12,222
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	1,364	資料整理、シンポジウム等運営 他	1,364
ポスト・ドクター	2,293	研究推進、研究助手の指導 他	2,293
研究支援推進経費	1,646	研究支援、シンポジウム等運営 他	1,646
計	5,303		5,303

年 度	平成 31 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	3,579	コピー用紙購入、雑誌購入 他	3,579
光 熱 水 費			
通 信 運 搬 費	792	刊行物発送、チラシ発送 他	792
印 刷 製 本 費	13,367	刊行物印刷製本、文献複写 他	13,367
旅 費 交 通 費	2,941	出張旅費、招聘旅費	2,941
報 酬 ・ 委 託 料	9,842	書類整理、資料デジタル化 他	9,842
(そ の 他)	929	謝金、会議費 他	929
計	31,450		31,450
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	182	資料整理	182
教育研究経費支出			
計	182		182
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	330		330
図 書	3,877		3,877
計	4,207		4,207
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	1,062	資料整理、シンポジウム等運営 他	1,062
ポスト・ドクター	2,391	研究推進、研究助手の指導 他	2,391
研究支援推進経費	1,573	研究支援、シンポジウム等運営 他	1,573
計	5,026		5,026

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

学校法人名	学校法人二松学舎	大学名	二松学舎大学
研究プロジェクト名	近代日本の「知」の形成と漢学		

平成 27 年度～平成 31 年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

研究成果報告書の概要

別紙資料

外部(第三者)評価報告書

二松學舎大学文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「近代日本の「知」の形成と漢学」(平成 27 年度採択)

外部(第三者)評価報告書

【対象年度】 平成 27 年度～平成 29 年度(中間評価)

【評価内容】

中間報告書をご参照の上、研究目的を達成するための 3 本の柱の進捗状況について、該当する評価に○印をつけてください。

1. 国際的な研究ネットワークによる日本漢学研究の推進

A 順調に進捗している B ほぼ進捗している C あまり進捗していない

2. 日本漢学に関する各種の情報発信、および研究基盤の整備

A 順調に進捗している B ほぼ進捗している C あまり進捗していない

3. 日本漢学分野の研究者養成

A 順調に進捗している B ほぼ進捗している C あまり進捗していない

【特記事項】特に評価できる点、改善すべき点等をご記入ください。

近代日本の「知」の形成に漢学が果たした役割を多角的に解明する点が独創性である。

4つの研究班からなる組織づくり、中国・韓国・台湾・ヨーロッパなどの研究者・大学と結ぶ国際的研究ネットワーク、シンポジウムや講演会、公開講座、ニューズレターなどによる情報発信など、いずれも高く評価できる。特に平賀中南『春秋集箋』、柿村重松『松南雑草』などの整理・出版、『新収資料展 近代漢学の諸相』・『明治漢文教科書集成 第Ⅲ期』の刊行は着実な基礎研究として注目される。また若手育成の面では、平成 29 年度に新設された博士(日本漢学)の学位取得者が出ており、今後の発展が期待される。

もし改善すべき点があるとするれば、いわゆる実業(政治家や企業家)と漢学との関係についても、より広範な事例研究がなされれば、いっそう充実した成果につながると思われる。

評価日： 平成 30 年 4 月 20 日

評価者：所属・職位 関西大学・教授

氏名 吾妻 重二



二松學舎大学文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「近代日本の「知」の形成と漢学」(平成 27 年度採択)

外部(第三者)評価報告書

【対象年度】 平成 27 年度～平成 29 年度(中間評価)

【評価内容】

中間報告書をご参照の上、研究目的を達成するための 3 本の柱の進捗状況について、該当する評価に○印をつけてください。

1. 国際的な研究ネットワークによる日本漢学研究の推進

A 順調に進捗している B ほぼ進捗している C あまり進捗していない

2. 日本漢学に関する各種の情報発信、および研究基盤の整備

A 順調に進捗している B ほぼ進捗している C あまり進捗していない

3. 日本漢学分野の研究者養成


A 順調に進捗している B ほぼ進捗している C あまり進捗していない

【特記事項】特に評価できる点、改善すべき点等をご記入ください。

- 1、日本の近代化を西洋的学知の積極的な吸収によって牽引した知識人の背景にあった教養や語学習得の基盤に「漢学」が大きな役割を果たしたことに注目した問題意識そのものの意義が大きい。開国以降、蘭学から英学へと軸足を移す際にも蘭語学習が漢文学習の応用から始まり、初期翻訳理論の基盤も漢籍に求めていたことなどを考えれば、漢学と近代化を結びつける視点の重要性は一層喧伝されるべきであろう。
- 2、プロジェクトを推進するに当たり、日本の学内外の研究者、中・台・韓に加え、オランダの研究者も参加させるなど、研究員の構成と配置に優れている。
- 3、日本国内のみならず、海外も含めて、国際的シンポジウムを驚異的なペースで開催しており、テーマもいわゆる座学のみではなく、教育活動、実業家の事績にも目を向けるなど、漢学を国際規模でとらえようとする積極的な姿勢が見られる。漢学研究を志向する大学院生が増加したのは研究テーマの魅力を掘り起こした成果であろう。

評価日： 2018 年 4 月 27 日

評価者：所属・職位 慶応義塾大学 日本語・日本文化教育センター 教授

氏名 木村 茂之 

二松學舎大学文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「近代日本の「知」の形成と漢学」（平成 27 年度採択）

外部（第三者）評価報告書

【対象年度】 平成 27 年度～平成 29 年度（中間評価）

【評価内容】

中間報告書をご参照の上、研究目的を達成するための 3 本の柱の進捗状況について、該当する評価に○印をつけてください。

1. 国際的な研究ネットワークによる日本漢学研究の推進

A 順調に進捗している B ほぼ進捗している C あまり進捗していない

2. 日本漢学に関する各種の情報発信、および研究基盤の整備

A 順調に進捗している B ほぼ進捗している C あまり進捗していない

3. 日本漢学分野の研究者養成


A 順調に進捗している B ほぼ進捗している C あまり進捗していない

【特記事項】特に評価できる点、改善すべき点等をご記入ください。

1. は、国内外の関係機関とのネットワークを構築し、ワークショップやシンポジウム、講演会を次々と企画、実施している点、高く評価できる。特に、国際シンポジウムが積極的に開催されており、「漢学者記念館会議」の開催も意義深い試みと評価できる。2. は、近代日本漢学に関する資料やコレクションを収集するのみではなく、それらの整理、研究を意欲的に推進し、資料展示や図録刊行という形でのアウトプットがなされている点、評価できる。『近代日本漢学資料叢書』等の刊行物も学界に大きく貢献するものである。3. は、研究助手の学位取得があり、また海外でのセミナーも人材育成のための重要な取り組みであると評価できる。今後も、諸々の活動や成果物の刊行等について、さまざまな媒体を通じて積極的な発信を行い、充実した活動に対する認知度がさらに高まるように工夫されたい。

評価日： 2018 年 5 月 2 日

評価者：所属・職位 早稲田大学文学部教授

氏名 河野 貴美子 

二松学舎大学文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「近代日本の「知」の形成と漢学」(平成 27 年度採択)

外部(第三者)評価報告書

【対象年度】 平成 27 年度～平成 31 年度(研究期間終了時評価)

【評価内容】

研究成果報告書をご参照の上、研究目的を達成するための 3 本の柱の達成状況について、該当する評価に○印をつけてください。

1. 国際的な研究ネットワークによる日本漢学研究の推進

A 達成されている B ほぼ達成されている C あまり達成されていない

2. 日本漢学に関する各種の情報発信、および研究基盤の整備

A 達成されている B ほぼ達成されている C あまり達成されていない

3. 日本漢学分野の研究者養成

A 達成されている B ほぼ達成されている C あまり達成されていない

【特記事項】特に評価できる点等をご記入ください。

21 世紀 COE プログラムの成果を発展させ、漢学研究の中心というにふさわしい業績を蓄積するとともに、近代日本における漢学の意義を広く発信したと思われる。

なかでも国内外の研究者による各種シンポジウム、研究会の開催は当事業の研究ネットワークをよく発揮している。資料・情報の整備、発信としては企画展の開催と図録の刊行、「明治漢文教科書集成」・「近代日本漢学資料叢書」・「近代日本漢籍影印叢書」のシリーズ刊行が入手しにくい文献資料を解題付きで出版したものとして価値が高く、「日本漢学画像データベース」の公開と併せて今後の研究に確固たる基盤を提供したものといえよう。さらに「講座 近代日本と漢学」全 8 巻の刊行は研究者の総力を結集して新たな領域を開拓し、現在における研究レベルを内外に示した重要な成果として高く評価される。

評価日： 2020 年 5 月 12 日

評価者：所属・職位 関西大学・教授(文学部)

氏名 吾妻重二



二松学舎大学文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「近代日本の「知」の形成と漢学」(平成 27 年度採択)

外部(第三者)評価報告書

【対象年度】 平成 27 年度～平成 31 年度(研究期間終了時評価)

【評価内容】

研究成果報告書をご参照の上、研究目的を達成するための 3 本の柱の達成状況について、該当する評価に○印をつけてください。

1. 国際的な研究ネットワークによる日本漢学研究の推進

A 達成されている B ほぼ達成されている C あまり達成されていない

2. 日本漢学に関する各種の情報発信、および研究基盤の整備

A 達成されている B ほぼ達成されている C あまり達成されていない

3. 日本漢学分野の研究者養成


A 達成されている B ほぼ達成されている C あまり達成されていない

【特記事項】特に評価できる点等をご記入ください。

日本の近代化に知的資産形成に貢献した漢学に対して、国内にあっては文献資料を博搜したばかりでなく、かつて漢学の拠点であった地域社会に向けても積極的にフィールドワーク的アプローチをし、関係者の後裔に対して聞き取り調査を行ったり、シンポジウムを開催するなどの活動を行ったことは画期的であった。また、国外の関連では東アジアの研究者を結集する学術的集会を頻繁に行い、文字通り国際的拠点としての機能を果たした。それらの成果は、単なる論文集ではなく、体系的に『講座近代日本と漢学』という企画出版物として結実し、ベテランから若手研究者に至るまで広く研究成果を公表する機会を与えたことは、研究者育成の責務を果たしたといえよう。総体的には漢学の国際的再評価を江湖に高からしめ、存在感を与えたことは当該分野において、類のない学術活動であったと評価できる。

評価日： 2020年 5 月 15 日

評価者：所属・職位 慶応義塾大学 教授

氏名 木村 義之 

二松学舎大学文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「近代日本の「知」の形成と漢学」（平成 27 年度採択）

外部（第三者）評価報告書

【対象年度】 平成 27 年度～平成 31 年度（研究期間終了時評価）

【評価内容】

研究成果報告書をご参照の上、研究目的を達成するための 3 本の柱の達成状況について、該当する評価に○印をつけてください。

1. 国際的な研究ネットワークによる日本漢学研究の推進

A 達成されている B ほぼ達成されている C あまり達成されていない

2. 日本漢学に関する各種の情報発信、および研究基盤の整備

A 達成されている B ほぼ達成されている C あまり達成されていない

3. 日本漢学分野の研究者養成

A 達成されている B ほぼ達成されている C あまり達成されていない

【特記事項】特に評価できる点等をご記入ください。

研究の推進、情報発信、研究者養成の 3 本の柱に沿い、きわめて精力的な活動が展開され、数多くの実績が残された。とりわけ、漢学者関連資料が精力的に収集されたこと、さらには、岡山県倉敷市との包括協定や全国各地の関係機関を結ぶ「漢学者記念館会議」の開催などは、「近代日本の「知」の形成と漢学」の研究拠点としての役割を果たすきわめて意義深い活動である。また、『講座 近代日本と漢学』全 8 巻は、本研究の意義を広く発信し、後進の育成にも資する重要な成果である。

評価日： 2020 年 5 月 14 日

評価者：所属・職位 早稲田大学文学学術院・教授

氏名 河野 貴美子 